



2026

AOMORI

青の煌めきあおもり国スポ



公式マスコット
「アップリート君」

第80回国民スポーツ大会

アーチェリー競技会

会 期 10.5^月 - 7^水

会 場 カクヒログループアスレチックスタジアム

主 催 公益財団法人日本スポーツ協会・文部科学省・青森県・公益社団法人全日本アーチェリー連盟・青森市

2026 AOMORI

第80回国民スポーツ大会

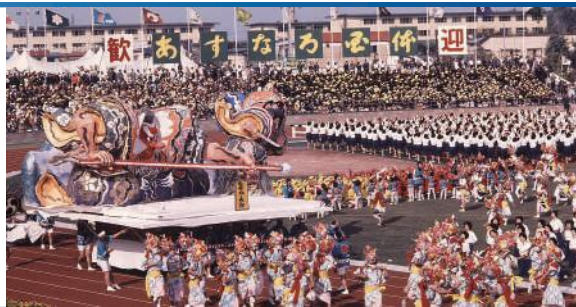
The 80th JAPAN GAMES

国民スポーツ大会（国スポ）は、都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなろ国体[※]以来49年ぶりであり、前回同様、冬季大会と本大会を同一県で開催する「完全国スポ」です。

※ 2024年から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わりました。

あすなろ国体とは？

昭和52年、青森県で国体史上初となる完全国体（冬・夏・秋と3季にわたり行われる大会を同一県で実施した国体）として、第32回国民体育大会（あすなろ国体）が県内各地で華々しく開催され、本県は天皇杯を獲得しました。



大会愛称

青の煌めき^{きら}あおもり国スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

スローガン

翔ける未来^{きら}へ縄文の風に乗って

縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

イメージソング「翔ける未来へ」



作詞：井元 仁江
作曲：T. Mikami
編曲：多田 慎也、島田 尚
歌唱：りんご娘
（ピンクレディ、
スターキングデリシャス、
はつ恋ぐりん、金星）

ダンス「青の煌めきダンス」^{きら}



イメージソング「翔ける未来へ」にあわせ、振付けに青森県を表現するポーズやねぶたの跳人の動き、手話による表現などを盛り込んだ、青森らしいユニバーサルデザインダンスです。

公式マスコット



「アップリート君」

特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

LINEスタンプも販売！



最新情報は公式アプリ・HP・SNSで！

公式アプリ



Download on the
App Store

GET IT ON
Google Play

Q あおもり国スポ

検索

今すぐ無料ダウンロード！

公式HP



X



Instagram

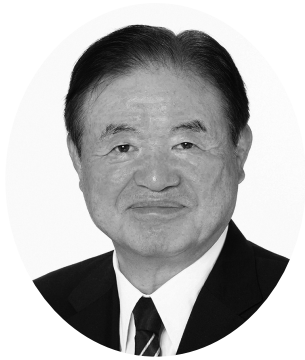


YouTube



目 次

あいさつ	1
歓迎の言葉	4
国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程	7
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程	8
大会役員	9
競技会役員	13
競技役員	15
総則	17
実施要項	36
競技日程	41
式次第	42
都道府県参加選手一覧表	43
参加選手一覧（監督・選手）	44
立ち順一覧表	47
成年女子組合せ	48
少年女子組合せ	53
成年男子組合せ	56
少年男子組合せ	61
イリミネーション～ファイナルラウンド組合せ表	64
第80回国民スポーツ大会総合成績一覧表	68
アーチェリー競技について	69
過去の成績一覧	71
国スポ記録・日本記録・世界記録	85
関係機関・大会関係連絡一覧	86
競技会場案内図	87
協賛企業の紹介	92
アーチェリー競技会 記録速報	100
メモ	101



あ い さ つ

公益財団法人日本スポーツ協会
会 長 遠 藤 利 明

はじめに、本年7月28日に発生した令和8年熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、同地震及び昨年12月8日に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第80回国民スポーツ大会は、本年1月から2月に行われた冬季大会と併せ、「完全国スポ」として開催いたします。

第71回岩手大会以来、10年ぶりとなる「完全国スポ」を締めくくる本大会が、縄文の時代から育まれてきた歴史と文化を有し、豊かな風土に恵まれた本州最北の地、ここ青森県において開催されますことは、誠に意義深いことであります。

本年は、第25回オリンピック冬季競技大会（ミラノ・コルティナ）、サッカーFIFA ワールドカップ2026、第20回アジア競技大会（愛知・名古屋）などの大規模な国際総合競技大会が開催され、多くのアスリートの目覚ましい活躍が、私たちに大きな勇気を届けています。

本大会が「翔ける未来へ縄文の風に乗って」というスローガンの通り、出場するアスリートの皆様にとって、世界へ羽ばたく契機となることを切に願っています。

さて、日本スポーツ協会では、「有識者会議」からの提言に基づき、令和7年7月、改革を具体的に進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置しました。

今後、現状と課題を分析し、国民スポーツ大会が競技性・祝祭性・社会性・文化性を掛け合わせた、「トップアスリートと地域スポーツの好循環 ～人と地域の未来を創る～」という理念を具現化できる大会となるよう、検討を進めているところです。

結びに、地震からの復旧に取り組みながら、本大会の開催にあたり諸準備にご尽力いただきました 青森県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あいさつ

文 部 科 学 大 臣
松 本 洋 平

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省としては、被災された熊本県をはじめとする自治体への支援に全力を挙げて取り組んでまいります。

天皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ青森県において昭和100年記念 第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

青森県は、世界自然遺産の「白神山地」、四季折々の表情を見せる「八甲田山」や「岩木山」など豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」や重要無形民俗文化財である「青森のねぶた」など、自然と文化が息づく県です。

昭和52年のあすなろ国体以来49年ぶりの青森県での開催となり、「翔ける未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

本大会は、史上初となる総合開会式・閉会式の屋内開催に加え、大会公式アプリによる競技情報や結果速報の提供、デジタルチケットの活用などデジタル技術の活用により、選手と観客双方に配慮した大会運営となっています。「青の煌めきあおもり国スポ」が、国民に夢と感動を与え、青森県の魅力発信と活性化につながる大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や青森県民の皆さんとの交流を通じて、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は、愛知・名古屋において、第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「青の煌めきあおもり国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元青森県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶いたします。



あ い さ つ

公益社団法人 全日本アーチェリー連盟
会 長 世 耕 弘 成

初めに、令和8年8月に発生した熊本地震、そして同月に千葉県を襲った記録的な集中豪雨により、尊い命を失われた方々に深く哀悼の意を表します。亡くなられた皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、ご遺族の皆様に心からお悔やみを申し上げます。一日も早い復興を願っております。

昭和100年記念となる第80回大会は、「青の煌めき あおもり国スポ」「翔けろ未来へ 縄文の風に乗って」というスローガンのもと、ここ青森県青森市・新青森県総合運動公園カクヒログループアスレチックスタジアムで開催されます。

青森県での開催は、1977年の第32回国民体育大会「あすなろ国体」以来49年ぶりであり、地域の歴史と未来をつなぐ大きな節目となります。

国スポ大会が掲げる理念は、「スポーツを通じて人と地域をつなぎ、未来を創造すること」にあります。アーチェリー競技は心を整え、風と向き合い、己の内面と対話する競技です。その過程には、困難を乗り越え、前へ進む力が宿っています。競技が持つ精神は、まさに国民スポーツ大会が目指す理念と深く響き合うものです。

選手の皆様には、どうか一射一射に心を込め、アーチェリーが持つ「未来を切り拓く力」を存分に発揮していただきたいと思います。今年度は、日本での第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会も開催され国民に勇気と感動を与えています。

最後に本競技会の開催にあたり、青森県、青森市、実行委員会、関係団体、そして多くのボランティアの皆様にご多大なるご尽力を賜りました。スポーツの理念を地域に根づかせるための皆様の献身に、心より敬意と感謝を申し上げます。



歓迎のことば

青森県知事 みやした そういちろう 宮下 宗一郎

はじめに、令和8年熊本地震によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

昭和100年記念青の煌(きら)めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」が昭和元年(1926年)から起算して満100年の節目となる年に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、青森県において開催されますことをお喜び申し上げます。そして、全国各地からお越しくださいました選手及び関係者の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、史上初の完全国体である「あすなろ国体」以来49年ぶりとなる青森県での開催であり、国民体育大会から国民スポーツ大会に大会名称が変更されてから、初の“完全国スポ”となります。

「翔ける未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、美しく豊かな自然の恵みを受けながら、一万年以上にわたり縄文文化が営まれていたこの青森の地で生まれる新たな歴史と感動、そしてこれを希望ある未来へつなげていきます。

“スポーツで青森県が一つ”に、“私たち県民の心がスポーツで一つ”になる、「青森新時代」の大会を目指し、県民総参加で青森県を青の煌(きら)めき一色に染め上げ、スポーツの祭典を盛り上げたいと考えています。

選手の皆様には、日々の練習で培ったパフォーマンスを存分に発揮されますとともに、感動と温かい交流にあふれ、皆様の心に残る最高の大会となることを願っています。

結びに、今大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今大会の成功と選手の皆様の御健闘をお祈りし、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会会長
青森市長 西 秀 記

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」の歓迎のあいさつに先立ち、このたびの令和8年熊本地震及び令和8年8月千葉豪雨により亡くなられた方に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。本大会において選手の皆様がひたむきに競技に臨む姿が、多くの方々に感動と希望を届け、被災地の一日も早い復旧・復興への力となりますことを切に願っております。

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」は、昭和52年の「あすなろ国体」以来、青森県で49年ぶり2度目の開催となります。国体から国スポへの名称変更後、初の完全国スポとなる大会であり、青森市にてアーチェリー競技をはじめとする14競技19種目の正式競技を開催できますことを大変嬉しく思います。また、全国各地からお越しいただく選手や監督、関係者の皆様の、青森市民を代表して心より歓迎いたします。

本市では、スポーツを通じた交流人口の拡大により地域活性化を図る取組を進めており、青森駅周辺の歓迎装飾や各競技会場の応援のぼり旗など、全国から来訪される方々を青森らしい心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備してまいりました。

出場される選手の皆様におかれましては、これまで積み重ねてきた努力の成果を存分に発揮し、最高のパフォーマンスを披露されますことを期待しております。

また、大会期間中には、子どもたちがスポーツの楽しさや素晴らしさを体感できる機会づくりを進めることとしており、本大会が多くの方にとって心に残る実り多き大会となることを願っております。

さて、青森市には、静穏な陸奥湾、雄大な八甲田連峰などの豊かな自然のほか、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」の歴史や魅力を体感できる「ねぶたの家ワ・ラッセ」や、世界遺産にも登録された「三内丸山遺跡」、「小牧野遺跡」など、文化や歴史を感じられる施設が数多くあります。また、全国的にも有名なりんごや新鮮な海の幸など、豊富な食材にも恵まれております。ぜひこの機会に本市の多彩な魅力を堪能していただければ幸いです。

結びに、本大会の開催に当たり御尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様の御活躍を心より祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青森県アーチェリー協会
会長 澁谷 洋子

このたびの熊本県や千葉県における災害により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興と、皆様の安全、平穏な日々が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

第80回国民スポーツ大会アーチェリー競技会に参加される選手、監督、関係者の皆様、青森市へようこそお越しくださいました。心より歓迎申し上げます。

全国各地から本大会の舞台である青森の地にお集まりいただき、日頃の厳しい鍛錬の成果を存分に発揮される皆様をお迎えできることを大変うれしく、また光栄に存じます。皆様の熱意と挑戦に満ちた姿勢は、私たちにとっても大きな励ましとなっております。どうぞ最後まで全力を尽くし、最高のパフォーマンスを発揮され、その努力が実を結ぶ素晴らしい結果となりますよう心より願っております。

アーチェリーという競技は、高い集中力と精神力、そして一射一射に込める強い意志が求められます。一本の矢に全てをかけるその真剣な姿は、多くの人々の感動を呼び起こすことでしょう。選手の皆様には、これまで積み重ねてこられた日々の努力と情熱の結晶を余すところなく発揮し、悔いのない一射を放っていただきたいと切に願っております。

また、県外からお越しの皆様には、競技の合間に、青森の豊かな自然や食、温かい人情にも触れていただき、青森でのひとときが心に残るものとなれば幸いです。本大会が、選手同士の技術向上の場であると同時に、新たな友情や交流を育む貴重な機会となりますことも期待しております。互いに切磋琢磨し合いながら、素晴らしい競技会となるよう皆で盛り上げてまいりましょう。

結びに、本大会の成功と選手の皆様のさらなるご健闘を心より祈念し、歓迎の言葉といたします。改めまして、青森市へようこそ。皆様のご来訪を心より歓迎申し上げます。



天皇杯

皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 責任をもって保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。

(3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定

大会役員

2026年7月31日現在
(順不同・敬称略)

名誉会長	松本洋平			
会長	遠藤利明			
副会長	益子直美	田中不二夫	三宮恵利子	森岡裕策
	河合純一	宮下宗一郎		
顧問	森喜朗	安西孝之	岡崎助一	越川均
	坂元要	勝田隆	飯塚悟	池田めぐみ
	石井砂織	植田実	浦美奈子	笠師久美子
	鹿島丈博	木平芳定	工藤保子	久保正美
	小寺洋	櫻井由香	中嶋実	橋本聖子
	村松さやか	室伏由佳	湯川和之	吉岡成子
	久保直生	藤田裕司	藤原誠	室城信之
	金子日出澄	貝瀬智洋	森晃	土橋登志久
	石丸元国	多氣洋平	井崎洋志	鬼頭有紀子
	長谷川洋子	吉田長寿	齋木尚子	多賀恒雄
	安藤淳	上治丈太郎	湧永寛仁	三宅秀一郎
	佐藤健司	馬場美香	堺充廣	南和文
	宮永美寿津	千田健一	中里壮也	岡本友章
	大野淳	永谷喜一郎	田村恒彦	蒔田実
	山崎勝洋	浅見敬子	山口徹正	田中伸周
	村田利衛	建部彰弘	市野保己	丸石博
	中村ゆり子	齋藤良太郎	谷田部和彦	木村博美
	井上弘	今川啓一	近藤重和	池谷正成
	大澤明美	古城資久	小野賢二	園山和夫
	中山俊行	田中徹	知念かおる	出口弘之
	田邊哲人	城門政文	前川恵	園田義宜
	布村幸彦	川原元則	生島典明	大沢陽子
	谷藤節雄	中村伸彦	千葉玲佳	奥山雅信
	酒井祐一	藤田知己	北條俊明	田子昌之
	新井彰	山崎成夫	塩見清仁	田名部高雄
	井出仁	今西博一	中村宏平	新保暢
	森山喜博	横山幹夫	花崎武彦	高橋繁浩
	山本健次	増田和伯	藤堂寛	山本誠三
	松本恭幸	東直也	奥田晃	横尾英治
	小西慎太郎	近藤一幸	堂本ひさ美	河村祐一

渡邊浩三	田中稔	高岡晃仁	青木章泰
城戸英敏	小柳勝彦	辛木良朝子	宮成康藏
若林繁幸	川上隆弘	佐藤幸裕一	藤原良久美
新宮菅正孝	宇津木純子	菊村敦行	小小林茂樹
寺澤水良人	山田かおる	増野聰慎	矢野島和彦
清柿田潤一	茂木村中	江渡藤館	津田名部匡代
神土珠俊	山西秀木	工濱森田	風崎壽一
横町木進	三本澤祐二	有坂島金	尾鈴木大
鈴宮恒靖	深藤砂岡	坂田丸藤	鈴三山英
川合俊弘	砂岡井満	金後真世	安中土雅
馬場正也	村井正次	後真世久	中土川善弘
河合幸男	大野居光	世久北村	土川羽秀
町田富宏	土城有司	北村美祐	丹羽川裕
津賀一也	鶴田富可	吉遠岡石	北野元裕
達井川彦	小谷実之義	岡石中谷	大花角英
熊谷朗一	山野口祥二	石中谷脇	高村秀剛
新阿部恭彦	田橋健昌	西宮迫大	大高昭嗣
伊藤元也	福越宗裕	宮迫大平	林岡純敬
斎藤達正	綾田原耕	迫大平塩	村岡純敬
丸藤誠益	宮原限俊	大平塩田	今木城デニ
後服生直	日隈俊郎	塩田康一	玉城デニ

参 与	粂 阿 蛭 大 北 工 齐 高 田 夏 福 山 和 安 三 舩 工 佐 山 堤 高 宮 佐 七 三 外	井 部 沢 平 向 藤 藤 橋 端 堀 土 田 田 浦 木 藤 本 静 杉 野 藤 尾 上 崎	圭 祐 正 陽 由 悠 孝 修 深 嘉 直 寛 博 猛 久 泰 恒 子 勝 孝 忠 嘉 千 れ	子 己 勝 子 樹 平 昭 一 雪 郎 治 知 司 史 義 正 太 子 彦 晶 全 信 春 子	大 安 大 小 木 後 齊 高 鶴 夏 丸 山 奥 松 千 豊 栗 安 津 橋 工 田 倉 佐 高	杉 藤 崎 原 明 藤 藤 畑 賀 堀 井 谷 田 本 葉 島 林 田 場 藤 村 橋 藤 木	住 晴 光 大 和 清 紀 谷 浩 裕 清 忠 史 雄 信 貴 英 保 裕 琢 純 健 伸	子 美 明 佑 人 安 爾 子 貴 一 裕 文 雄 晴 文 幸 豊 司 一 人 司 哉 造 一 也	中 伊 大 川 櫛 小 鹿 田 寺 成 三 吉 大 中 後 秋 新 東 米 目 中 一 岡 高	村 吹 澤 村 引 比 内 中 田 田 橋 田 野 村 野 屋 山 内 澤 居 川 戸 島 杉	宇 信 祥 悟 ユ キ 卷 正 博 造 也 光 三 かり 圭 之 子 桂 文 男 明 一 子 吾 正 史 助	廣 井 大 菊 工 今 清 田 夏 花 森 吉 平 久 細 上 築 大 小 山 川 里 櫛 工 小	田 本 澤 池 藤 水 名 坂 田 内 俣 間 慈 谷 沢 田 山 山 口 浪 村 引 藤 関	美 貴 敏 兼 悦 部 坂 之 保 惠 美 健 謙 潮 力 修 城 浩 彦 貞 久 幸	香 之 彦 勲 光 博 郎 男 修 介 留 洋 美 穂 司 一 潮 力 修 城 浩 彦 貞 久 一
	山 岩 松 関 三 二 中 小	本 田 永 口 田 宮 尾 澤	史 敬 直 礼 智 慶 大	昭 子 樹 一 浩 郎 樹	石 三 菅 山 小 下 小	田 宅 原 澤 竹 條 笠 原	裕 宏 哲 文 喜 伸 忠	美 実 朗 裕 也 彦 儀	出 稲 田 福 田 江 高	崎 垣 崎 田 内 橋 井	和 公 博 一 慎 千 和	夫 雄 道 稔 也 晴 紀	笠 松 宇 秋 宮	野 田 野 本	英 基 勝 本

委 員 長
副 委 員 長
総 務 委 員

委	員	了	野	平	洋	聖	橋	高	一	史	雅	井	永	康	山	神	洋
		幸	士	福	宜	原	栗	栗	崇	秋	智	ノ	竹	克	木	鈴	宜
		玲	西	葛	男	野	濱	濱	勉	淳	澤	寺	黒	重	川	堀	浩
		信	喜	舟	巖	亮	福	宮	一	則	梶	中	川	越	口	川	巖
		憲	藤	加	也	良	岡	濱	輔	善	木	鈴	朝	鉄	塚	木	也
		俊	口	山	男	泉	濱	菅	茂	之	倉	岸	伊	斗	原	西	生
		宏	井	山	哲	崎	菅	上	幸	嗣	東	中	長	信	南	鈴	吾
		鉄	口	衛	人	正	関	杉	僚	美	段	中	崎	尚	木	崎	紀
		敬	藤	内	紀	保	関	田	二	由	重	國	高	治	村	高	也
		淳	田	吉	也	明	杉	坊	一	三	口	山	富	佑	梨	田	紀
		美	口	政	紀	好	田	坊	花	剛	澤	井	田	雅	澤	田	太
		三	岡	寺	昭	賢	柿	山	信	夕	口	橋	松	遙	中	長	昭
		大	垣	町	也	百	山	田	史	哉	橋	加	小	光	谷	小	健
		介	屋	白	元	繁	田	大	浩	樹	藤	阿	今	隆	井	片	元
		博	幡	幸	史	高	舟	三	輔	之	池	長	井	英	岡	井	史
		洋	田	三	行	大	三	稻	美	也	部	森	和	克	澤	越	文
		理	浦	福	志	雅	稻	佐	子	久	坂	木	松	吉	田	松	正
		志	剛	林	史	紀	佐	中	伸	也	島	前	加	敏	智	本	泰
		吾	林	小	悟	智	中	日	也	博	原	石	笠	守	本	藤	行
		子	本	松	行	純	中	川	剛	朗	田	前	吉	康	野	井	郎
		成	田	高	成	健	川	山	行	宏	本	濱	高	一	野	野	洋
		哉	甲	尾	彦	利	角	角	史	也	田	黒	菅	瑞	間	柄	晃
		彦	藤	都	彦	尚	角	角	正	克	葉	千	柄	宏	澤	河	之
		聡	崎	岡	聡	憲	塩	塩	司	和	木	加	今	公	野	河	紀
		稔	田	確	稔	知	武	武	己	哲	丸	藤	吉	元	後	今	彦
		弘	田	沼	弘	長	田	田	門	守	上	井	寺	直	岡	吉	彦
		仁	岡	高	仁	憲	葛	平	昭	已	井	崎	黒	祥	島	田	嗣
		治	木	荒	治	公	平		一	淳	淳	黒	城	敏	間	城	生
		彰	羽	丹	彰					一郎	一郎						

競 技 会 役 員

(順不同・敬称略)

名誉会長	西 秀 記				
会 長	世 耕 弘 成				
副 会 長	上 月 良 祐	松 丸 喜 一 郎	柿 崎 泰 明	澁 谷 洋 子	
	工 藤 拓 実				
顧 問	久 保 允 誉	飯 塚 十 朗	末 田 実	島 田 晴 男	
	宮 崎 利 帳	穂 苅 美 奈 子	松 木 謙 公	澁 谷 洋 子	
	鈴 木 俊 一	小 野 寺 寛 一	向 島 偕	後 藤 正 博	
	渡 邊 正 仁	中 川 喜 久 治	山 田 美 也 子	岩 井 均	
	松 崎 慶 喜	佐 々 木 克 敏	松 本 洋 平	加 藤 元 弥	
	野 口 英 二	金 子 健 三	村 上 正 之	川 上 浩	
	紐 野 義 昭	畑 孝 幸	竹 内 良 訓	鈴 木 和 也	
	田 中 祐 治	田 中 尚 一 郎	本 田 秀 樹	石 橋 常 男	
	宗 清 皇 一	辰 馬 建 仁	橋 本 和 典	世 耕 弘 成	
	杉 原 弘 一 郎	森 山 健 一	延 原 正 浩	久 保 允 誉	
	北 村 経 夫	森 裕 之	岡 田 理 絵	貞 本 和 彦	
	西 森 雅 和	加 地 邦 雄	土 井 敏 行	佐 藤 了	
	福 原 俊 明	佐 藤 郁 夫	図 師 博 規	岩 重 礼	
	新 城 敦 志	小 淵 優 子	下 村 史 郎	奈 良 岡 隆	
	工 藤 裕 司				
参 与	赤 平 勇 人	小 豆 畑 緑	天 内 慎 也	蛭 名 和 子	
	大 矢 保	小 熊 ひ と 美	小 倉 尚 裕	柿 崎 孝 治	
	軽 米 智 雅 子	木 戸 喜 美 男	木 下 靖	木 村 淳 司	
	工 藤 健	工 藤 夕 介	里 村 誠 悦	澁 谷 洋 子	
	関 貴 光	相 馬 純 子	竹 山 美 虎	舘 山 善 也	
	中 田 靖 人	中 村 美 津 緒	奈 良 祥 孝	長 谷 川 章 悦	
	花 田 明 仁	藤 田 誠	万 徳 な お 子	村 川 み ど り	
	山 田 千 里	山 本 武 朝	渡 部 伸 広	天 内 博 康	
	川 村 仁	齋 藤 美 鈴	土 岐 志 麻	松 浦 淳	
	赤 坂 寛	横 山 英 大	横 内 修	舘 山 新	
	小 野 正 貴	金 谷 浩 光	千 葉 康 伸	齋 藤 賢 剛	
	中 村 敦	白 戸 高 史	大 久 保 綾 子	佐 藤 秀 彦	
	横 内 信 満	工 藤 拓 実	大 久 保 文 人	木 村 颯 希	
	土 岐 政 温	奈 良 英 文	今 国 弘	佐 々 木 正 幸	
	泉 宏 明	角 田 毅	太 田 直 樹	遠 嶋 祥 剛	

	船橋正明	館山公	高野雅子	齊藤寿一
	佐々木和人	倉橋純造	一戸善正	山本知也
	前田濟	津島淳	大瀬良一	諏訪正徳
	今井正樹	河野満司	井戸端隆雄	中村雅彦
	服部一雄	正部家淳	高橋修一	菅原文子
	中嶋與志久	長尾信	川浪泰浩	相馬克典
	黒丸健吾	中川伸吾	今盛健一	花田惇徳
	高橋秀親	佐藤健一	盛藤智久	中村紀信
	白鳥晶司	小形峰雄	工藤幾末	大西透光
	北畠滋郎	福田真奈美	成田孝平	佐々木重稔
	森隆夫	後藤秀喜	佐藤	小田桐
委員長	中山康夫			
副委員長	田中伸周	中田真紀子	小田桐稔	手塚義浩
	田澤康治			
	五戸豊美			
委員長	砂盛京子	溪充	小澤純史	河合徳之
	樋口彰紀	高坂幸美	高山樹里	小杉理加
	小高映基	菅原正幸	篠原正俊	内間春彦
	櫻木由美子	野崎剛也	菅井宜光	酒田和彦
	山本陽一	森鉄也	長田洋之	高森満雄
	小笠原祐太	三浦洋昭	浜飯輝博	畑山郁子
	白戸渉	藤田未来也	篠原真史	佐藤真子
	竹越美津代	横山俊美	鳴海真修	宮木芙美子
	中村翔	五戸豊美	高橋修一	打谷桂子

競 技 役 員

(順不同・敬称略)

競 技 委 員 長	菅 原 正 幸			
競 技 副 委 員 長	小野寺 長久	澁 谷 洋 子	手 塚 義 浩	
上 訴 委 員 長	田 中 伸 周			
上 訴 委 員	佐々木 昇	渡 邊 正 仁		
総 務 委 員 長	菅 井 宜 光			
総 務 副 委 員 長	佐 藤 真 子			
総 務 委 員 主 任	鳴 海 真 史			
総 務 委 員	辻 村 明 子	小 松 克 守		
報 道 係 (報 道 係 主 任)	白 川 雅 之			
報 道 係	横 山 知 香	鈴 木 毅	武 田 康 廣	岩 崎 祥 平
印 刷 配 付 主 任	玉 田 美 奈 子			
印 刷 配 付 係	浅 井 麗 奈	安 保 勝 也		
射 場 (会 場) 係 長	小 田 桐 稔			
射 場 (会 場) 副 係 長	横 山 俊			
射 場 (会 場) 係 主 任	三 浦 洋 昭			
射 場 (会 場) 係	武 田 康 廣	岩 崎 祥 平		
計 時 ・ 放 送 員 主 任 (計 時 主 任)	宮 木 芙 美 代			
計 時 ・ 放 送 員 主 任 (放 送 主 任)	五 戸 豊 美			
計 時 ・ 放 送 員 (計 時 係)	工 藤 佑 華			
計 時 ・ 放 送 員 (放 送 係)	梅 原 瑠 璃 子	工 藤 伶 虹		
D O S	溪 充			
(D O S) (副 D O S)	野 崎 剛			
審 判 長	小 杉 理 加			
副 審 判 長	山ノ内 祥訓	後 藤 明 男		
審 判 員 (審 判 主 任)	山 本 陽 一	高 井 武 志	長 田 洋	宗 像 孝 幸
審 判 員	浜 飯 輝 之	五 十 嵐 祐 子	竹 越 美 津 代	鳥 居 碧 斗
	小 野 育 恵	高 橋 優 駿	貝 塚 創	小 坂 房ノ介
	横 井 日 出 昭	高 山 政 文	牧 伸 樹	阿 部 信 幸

	奈須野 明宏	白戸 仁弥	竹 内 伸	轟 良 尚
	西川 園生	酒 匂 正幸		
記 録 委 員 長	小笠原 祐太			
記 録 副 委 員 長	中 村 翔			
記 録 主 任	高 森 満雄			
記録得点集計係主任	日野澤 義子			
記 録 得 点 集 計 係	高 木 恭理	高 橋 佳子		
記 録 掲 示 係 主 任	鍋 倉 哲章			
記 録 掲 示 係	清 水 舞子	後 藤 優	佐 藤 梓	
総合成績計算委員長	菅 原 正幸			
総合成績計算委員	小笠原 祐太			
練 習 会 場 係 長	森 鉄 也			
練 習 会 場 副 係 長	高 橋 由伸			
練 習 会 場 係	津取場 啓大	大向 もも香	中 田 梨久	三浦 明日香
	岡 堀 優斗	中 村 葉月		

競技補助員・ボランティア

青森県立青森西高等学校 青森県立七戸高等学校
 青森県立青森東高等学校 青森県立六ヶ所高等学校
 青森県立青森中央高等学校 青森県立名久井農業高等学校
 青森山田高等学校 運営ボランティアの皆様
 青森県立三本木農業恵拓高等学校

競技会係員

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実施本部職員

第80回国民スポーツ大会 本大会実施要項総則

開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

青森県で開催する第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」は、「翔ける未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに掲げ、スポーツによる感動や交流の輪が広がるとともに、本県のあらゆる魅力を発信するなど、県民総参加による青森県らしさあふれる大会を目指して開催する。

実施方針

1 実施競技

(1) 正式競技（37 競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2) 公開競技（7 競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

(3) デモンストレーションスポーツ（39 競技）

いきいき太極拳、インディアカ、ウォーキング、ウォークビンゴ、エンジョイ！グラウンド・ゴルフ、オリエンテーリング、カーリング、空道、女子ソフトボール、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、ターゲット・バードゴルフ、ダンススポーツ、ドッジボール、年齢別ソフトテニス、年齢別テニス、年齢別バドミントン、ノルディックウォーキング、パークゴルフ、パラグライディング、ビリヤード、ビーチサッカー、ファイン・ボール、フライングディスク、ふれあいゲートボール、ふれあいソフトボール、ふれあいボウリング、フロアボール、ペタンク、マスターズスイミング、マスターズ陸上競技、マラソン、マラソン&ウォーキング、モルック、ユニカール、ユニバーサルホッケー、ラージボール卓球、Let's Enjoy バウンドテニス

(4) 特別競技（1 競技）

高等学校野球

2 会期及び会場地

(1) 正式競技・特別競技（11 市、11 町、2 村：計 24 市町村）

会 期	会 場 地
2026年10月10日（土） ～10月20日（火） 〔11日間〕	青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市、西目屋村、藤崎町、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、五戸町、南部町、階上町、山梨県北杜市
2026年 9 月 3 日（木） ～ 9 月13 日（日） 〔11日間〕	青森市、弘前市、十和田市、三沢市、むつ市、平内町、西目屋村、野辺地町、六ヶ所村、宮城県利府町 ※ 水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、相撲、ライフル射撃、カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）、クレ射撃、ゴルフ、トライアスロン競技会は上記会場地で実施
2026年10月 2 日（金） ～10月 7 日（水） 〔 6 日間〕	青森市、弘前市 ※ アーチェリー、高等学校野球競技会は上記会場地で実施

(2) 公開競技（3 市 2 町：計 5 市町）

会 期	会 場 地
2026年 8 月 8 日（土） ～10月 4 日（日）	十和田市、三沢市、平川市、平内町、藤崎町

(3) デモンストラレーションスポーツ（7 市、16 町、6 村：計 29 市町村）

会 期	会 場 地
2026年 5 月10日（日） ～10月 4 日（日）	青森市、弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、平川市、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、鰯ヶ沢町、深浦町、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、横浜町、東北町、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、田子町、階上町、新郷村

(4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2026 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの期間で、原則として、県内市町村で開催する。

3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第80回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <https://www.japan-sports.or.jp/> 】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「8 参加申込方法」で定めた本戦参加申込締切時に1年以上在籍していること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)bについて、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 第78回又は第79回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第78回又は第79回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

[注] a及びbは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 令和6年能登半島地震に係る参加資格特例措置を活用する者（別記6「令和6年能登

半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

(イ) 少年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

c 一家転住に係る者(別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。)

[注] a から c は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

d JOC エリートアカデミーに在籍する者(別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。)

e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者(別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

f 令和6年能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者(別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会(以下「日本スポーツ協会」という。)が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ア) 都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 勤務地

(ウ) ふるさと(別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。)

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受けふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地(以下「学校所在地」という。)

(ウ) 勤務地

(エ) 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2026年4月30日以前から本大会終了時（2026年10月20日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

- (ア) 成年種別に参加する者は、2008年4月1日以前に生まれた者とする。
- (イ) 少年種別に参加する者は、2008年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者とする。
- (ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2026年4月1日を基準とする。

イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2011年4月2日から2012年4月1日までに生まれた者）とする。

- (4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

- (1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—————	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

- (2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

- (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

- (2) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

- (3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

- (4) 各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

- (5) 各競技の各種別及び各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

- (6) 各正式競技及び特別競技の第1位から第3位までの選手にメダルを授与する。

8 参加申込方法

- (1) 参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛てに申込みものとする。

- (2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

なお、各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

- (3) 参加申込締切日時

締切日時	競 技
2026 年 8 月 13 日（木） 午後 5 時 【15 競技】	水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、自転車、相撲、ライフル射撃、カヌー、クレ射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

2026 年 9 月 3 日（木） 午後 5 時 【24 競技】	陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール（6 人制）、バスケットボール、レスリング、ウエイトリフティング、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球
---	---

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛てに届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人あたりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区 分	負 担 金
少年の種別に参加する選手	3, 0 0 0 円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6, 0 0 0 円

[注] 地震、風水害、感染症及びその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金を行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会に取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2026 年 9 月 4 日（金）

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729
公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込み。

12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
 - ア 参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。
 - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。
 - ウ 参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。

なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の 1 日あたりの編成人数については、上記(1)及び(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2026 年 9 月 3 日（木）午後 5 時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13 視察員

- (1) 視察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2027 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、宮崎県 100 名以内、長野県及び群馬県 60 名以内、島根県及び奈良県 40 名以内とする。
- (2) 都道府県の視察員の参加申込は、2026 年 9 月 3 日（木）午後 5 時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14 参加章及び AD カードの交付

参加章及び AD カードは、次の者に交付する。

- (1) 参加章
 - ア 都道府県選手団の本部役員、監督及び選手
 - イ 大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員
 - ウ 公開競技及びデモンストラレーションスポーツ参加者
- (2) AD カード (Accreditation Card)
 - ア 都道府県選手団
 - イ 大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員
 - ウ 大会主催者及び競技会主催者が認めた者
 - エ 公開競技に参加する選手、監督及び役員

15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16 個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

(1) 個人情報の取り扱い

ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
- (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
- (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
- (エ) 大会関連ホームページへの掲載
- (オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
- (イ) 国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載
- (ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
- (エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾

を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポーツ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

- (1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

- (2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

- (3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

- (4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

- (5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

- (6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

- (7) 競技運営に差し支えない限り、青森県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

- (1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。

- (2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

- (3) 納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ通知する。

19 青の煌めきあおもり国スポの実施目標

- (1) スポーツによる感動の創出と地域へのスポーツの定着

スポーツを「する」「みる」「ささえる」など多様な場面で、感動が創出されることによ

り、県民の誰もがスポーツに関わる楽しさを感じることができる環境が整備されるとともに、県内各地で地域住民がスポーツに取り組む習慣が身につき、スポーツが地域に定着する大会とする。

(2) 自発的、積極的な県民参加による地域の活性化

県民一人ひとりが、開催準備に自発的、積極的に参加するとともに、スポーツを通じた健康づくりなどに一丸となって取り組むことにより、全ての県民が心身ともに健康な状態で大会を迎え、その後も各地域が元気で活力に満ちた姿となる大会とする。

(3) 来県者への熱い心でのおもてなしとあらゆる魅力の発信

大会に参加する選手・監督・役員・応援者など数多くの来県者を熱いおもてなしの心で迎えるとともに、大会期間を通して本県のあらゆる魅力を体感していただくことにより、再び本県を訪問したいという気持ちを喚起する大会とする。

(4) 北国ならではの大会運営

北国ならではの気象条件を考慮し、総合開・閉会式を屋内開催とするとともに、競技特性も考慮の上、会期前競技を多く設定することなどにより選手ファーストを意識した大会とする。

20 その他

(1) 参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

(3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者及び『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛てに提出する。

別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1－③）に抵触しないものとする。
 - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
 - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、又は同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2)-②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）の規定に従い扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、国民スポーツ大会委員会の決議を経て当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第33回オリンピック競技大会（2024年・パリ）に参加した者。
- (2) 2026年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア JOC オリンピック強化指定選手

イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者

ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2026年4月30日以前から大会終了時（2026年10月20日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2026年4月30日以前から大会終了時（2026年10月20日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。
- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③のとおりとする。

別記5 「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2026年4月30日以前から大会終了時（2026年10月20日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第78回又は第79回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2026年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場す

ることができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第 3 項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

別記6 「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2026年4月30日以前から当該大会終了時（2026年10月20日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第78回大会又は第79回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2026年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

〔注〕 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学してい

る実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第 3 項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

〔30〕アーチェリー競技

1 期 日 2026 年 10 月 5 日(月)から 10 月 7 日(水)まで(3 日間)

種別	10 月 5 日(月)	10 月 6 日(火)	10 月 7 日(水)
成年女子 少年女子	午前 練習・競技 (クオリフィケーション ラウンド)	競技 (イリミネーションラウ ンド～セミファイナル)	競技 (ファイナルラウンド) ブロンズメダルマッチ ゴールドメダルマッチ
成年男子 少年男子	午後 練習・競技 (クオリフィケーション ラウンド)		

- ※1 用具検査は 10 月 4 日(日)午後 1 時から午後 4 時までに練習会場の用具検査テントで行い、10 月 5 日(月)の用具検査(全種別午前 8 時 30 分から午前 9 時まで)は、10 月 4 日(日)に未実施のものと、再検査のみとし、競技会場で実施する。
- ※2 練習会場は、10 月 4 日(日)から 7 日(水)まで新青森県総合運動公園投てき・アーチェリー場に開設する。開設時間は原則として 4 日(日)から 6 日(火)は午前 8 時 30 分から午後 4 時まで、7 日(水)は午前 8 時 30 分から午前 11 時 30 分までとする。

2 会 場 青森市 カクヒログループアスレチックスタジアム
(新青森県総合運動公園)

3 種別及び参加人員

種別	監督	選手	参加都道府県	小計	合計(選手・監督)
成年男子	52 名 1 都道府県 2 名以内	3	24	72	280
成年女子		3	24	72	
少年男子		3	14	42	
少年女子		3	14	42	

※ 監督配置数の調整方法

- (1) 参加都道府県に必ず 1 名を配置する。
- (2) 上記(1)により配分した人数を 52 名から差し引いて得られた人数を次のアからカの順で、それぞれに該当する都道府県に対し各 1 名を上限に配置する。
 - ア 少年男子・少年女子・成年男子・成年女子の全種別に参加する都道府県
 - イ 少年男子と少年女子の両種別と成年男子と成年女子のいずれかに参加する都道府県
 - ウ 少年男子と少年女子のいずれかと成年男子と成年女子の両種別に参加する都道府県
 - エ 成年男子と成年女子のいずれにも参加せず、少年男子と少年女子の両種別に参加する都道府県
 - オ 少年男子と少年女子のいずれかと成年男子と成年女子のいずれかに参加する都道府県
 - カ 少年男子と少年女子のいずれにも参加せず、成年男子と成年女子の両種別に参加する都道府県

4 競技上の規程及び方法

(1) 競技上の規程

ア 全日本アーチェリー連盟競技規則「ターゲットアーチェリー」による。

イ 競技は、クオリフィケーションラウンド及びイリミネーションラウンド及びファイナルラウンドとする。

ウ 参加資格に不備や虚偽の者が出場した場合には、そのチームを大会から除外して行う。

(2) 競技の方法

ア クオリフィケーションラウンドは、70mラウンドで実施する。

イ 競技は、クオリフィケーションラウンドは、1 標的 3 名の行射で、A・B・C の 1 立ち制とする。

ウ イリミネーションラウンド進出チームは、成年 16 チーム、少年 8 チームとする。ただし、1 位から 16 位まで、又は 1 位から 8 位までに同順位及び 16 位、8 位に同順位が出た場合は、全日本アーチェリー連盟競技規則(第 208 条 5 項)により順位を決定する。

エ イリミネーションラウンド及びファイナルラウンドは、オリンピックラウンドで実施する。

なお、5 位から 8 位までの順位は、敗退したマッチ戦の規定本数の素点平均点（小数点以下第 3 位に切り上げ）で順位を決定する。規定本数の素点平均点と同点の場合は、全日本アーチェリー連盟競技規則(第 208 条 6 項)により順位を決定する。

オ 出場選手・監督の変更は、監督会議時に発表する。

5 予選方法

(1) 予選は、各都道府県大会及び各ブロック大会とし、それぞれの大会は本大会の実施要項に基づき、各都道府県大会は 70m ラウンドを含む競技により実施するものとし、各ブロック大会は、70m ラウンドで実施するものとする。

(2) 出場者は、全日本アーチェリー連盟に登録を完了し、「A・J・A・F ターゲットスターバッジ」の資格を取得している者とする。

(3) 各都道府県協会(連盟)は、都道府県大会を実施し、ブロック大会及び本大会に出場する種別代表選手を決定する。

(4) ブロック大会は、所属都道府県協会(連盟)の共催のもとに開催地協会(連盟)が主管して実施し、期日、会場、実施方法については当該都道府県スポーツ協会と協議の上決定し、本大会に出場する代表都道府県を決定する。

(5) ブロック大会区分及び代表都道府県数は、下表のとおりとする。

ブロック名	都 道 府 県 名	成年 男子	成年 女子	少年 男子	少年 女子
北海道	北海道	1	1	1	1
東北	岩手、宮城、秋田、山形、福島	2	2	2	2
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、 神奈川、山梨	4	4	2	2
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	3	2	1	1
東海	静岡、愛知、三重、岐阜	2	2	1	1

近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	3	3	2	2
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	2	3	1	1
四国	香川、徳島、愛媛、高知	2	2	1	1
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、 鹿児島、沖縄	4	4	2	2
開催県	青森	1	1	1	1
計		24	24	14	14

6 予選結果の報告

- (1) 各都道府県(連盟)は、ブロック大会開催2週間前までに、立ち順が記載された全選手の都道府県大会予選の成績表(A4)1部をブロック大会の開催地協会(連盟)事務局宛てに提出すること。
- (2) ブロック大会の開催地会長は、ブロック大会終了後翌日に、前項の都道府県大会予選及び各ブロックの成績一覧表(A4)1部を全日本アーチェリー連盟宛てに提出すること。

7 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則5に定めるもののほか、次による。

- (1) 参加選手は、本年度の全日本アーチェリー連盟に会員競技者登録を完了し、「A・J・A・Fターゲットスターバッジ」の資格を取得している者であること。監督は、本年度の全日本アーチェリー連盟に会員登録を完了し、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認アーチェリーコーチ1、公認アーチェリーコーチ2、公認アーチェリーコーチ3、公認アーチェリーコーチ4のいずれかの資格を有する者であること。
- (2) 各予選の結果、代表として選抜された選手をもってチームを編成しなければならない。
- (3) 少年種別に参加できる選手には、2011年4月2日から2012年4月1日までに生まれた中学3年生を含む。
- (4) 選手、監督の兼任はできない。
- (5) 本項に定める事項は、都道府県大会にも適用する。

8 総合成績決定方法

男女総合成績(天皇杯得点)及び女子総合成績(皇后杯得点)は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競技得点
成年男子 成年女子 少年男子 少年女子	成年女子 少年女子	各種別とも1位24点、2位21点、3位18点、4位15点、5位12点、6位9点、7位6点、8位3点の競技得点を与える。 ただし、同点の場合はその順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のを加え、当該都道府県で等分する。

(2) 参加得点

大会(ブロック大会含む)に参加した都道府県に 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

9 表 彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第 1 位から第 8 位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第 1 位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 各種別団体及び各種別個人の第 1 位から第 8 位までに、賞状を授与する。

10 参加申込方法

- (1) 所定の Web ページ(国民スポーツ大会参加申込システム)へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通して、2026 年 9 月 3 日(木)午後 5 時までに申込手続を完了すること。
- (2) 締切期限以降は所定の Web ページ(国民スポーツ大会参加申込システム)へアクセスができなくなるので、締切期限を厳守すること。
- (3) 参加申込締切後の選手・監督の変更は、疾病、傷病等特別な場合のみ認める。

なお、変更する場合は、下記のア、イ、ウの事務局宛に文書で、監督会議前日までに届けなければならない。

- ア 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘 4 番 2 号
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 707 号室
公益社団法人全日本アーチェリー連盟
TEL 03-6459-2812 FAX 03-6459-2813
- イ 〒030-8570 青森県青森市長島 1 丁目 1 番 1 号
青森県庁東棟 4 階
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局
(青森県国スポ・障スポ局 競技式典課 競技運営グループ)
TEL 017-734-9771 FAX 017-734-8015
E-mail aomori2026kyougiuneai@pref.aomori.lg.jp
- ウ 〒038-8505 青森県青森市柳川 2 丁目 1 番 1 号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会事務局
(青森市経済部 国スポ・障スポ競技課)
TEL 017-761-4462 FAX 017-761-4489
E-mail archery2026@city.aomori.aomori.jp

なお、イ、ウについては、原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対して、大会終了後、別途、所定の手続きにより、参加申込み情報を修正すること。

11 参加上の注意

- (1) 参加出場者のユニフォームは、チーム内が単一のもので上衣には都道府県名が明記され、下衣は統一されたものであり、競技会場・練習会場においては監督・選手とも全日本アーチェリー連盟競技規則による統一されたユニフォームを着用すること。
- (2) 選手の事情により得点記録に代行者が必要な場合は、監督会議前日までに届け出なければならない。また、代行者はチーム内の監督又は同様の選手とし、服装は選手と同様とする。
- (3) 監督は、交付される監督 AD カードを当該種別競技中、視認できる箇所に付けなければならない。
- (4) 用具検査時には、監督は資格を証明する登録証を提示する。選手は全日本アーチェリー連盟の会員証と「A・J・A・Fターゲットスターバッジ」を提示すること。
- (5) 表彰式には、監督・選手ともユニフォームを着用し、必ず参加すること。
- (6) 開催地において配宿する人数は、原則としてエントリー数のみとする。
- (7) 監督会議には、監督は全員必ず参加すること。

12 その他

(1) 組合せ抽選会

日 時 2026 年 9 月 5 日(土) 午前 11 時
場 所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 内会議室
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘 4 番 2 号
TEL 03-6459-2812 FAX 03-6459-2813

(2) 競技役員会議

日 時 2026 年 10 月 4 日(日) 午前 10 時
場 所 カクヒログループアスレチックスタジアム 選手招集室
(新青森県総合運動公園)
〒039-3505 青森県青森市大字宮田字高瀬 22 番地 2

(3) 監督会議

日 時 2026 年 10 月 4 日(日) 午後 4 時
場 所 カクヒログループアスレチックスタジアム 選手招集室
(新青森県総合運動公園)
〒039-3505 青森県青森市大字宮田字高瀬 22 番地 2

(4) 表彰式

日 時 (個人)
2026 年 10 月 5 日(月) 午後 4 時～午後 4 時 30 分
(団体)
2026 年 10 月 7 日(水) 午後 3 時～午後 3 時 45 分
場 所 カクヒログループアスレチックスタジアム
(新青森県総合運動公園)
〒039-3505 青森県青森市大字宮田字高瀬 22 番地 2

〔30〕アーチェリー競技 競 技 日 程

青森市

会場：カクヒログループアスレチックスタジアム

競技役員会議	10月 4日（日）10時00分	カクヒログループアスレチックスタジアム
監督会議	10月 4日（日）16時00分	カクヒログループアスレチックスタジアム

月日 会場	10月 5日（月）	10月 6日（火）	10月 7日（水）
カクヒログループアスレチックスタジアム	用具再検査・全種別（未実施含） 8:30～ 9:00	練習ゾーン開設 11:15～14:55	練習ゾーン開設 8:30～13:35
	競 技 （クオリフィケーションラウンド）	競 技 （イリミネーション～ファイナルラウンド）	競 技 （ファイナルラウンド）
		1／8イリミネーション	ブロンズメダルマッチ
	成年女子	成年女子	少年女子
	少年女子	練 習(4分×2 + 2分×2)	競 技 9:00～ 9:30
	練 習 9:10～ 9:40	8:30～ 9:00	少年男子
	競 技	競 技 9:00～ 9:30	競 技 9:40～10:10
	1回目 9:55～10:50	成年男子	成年女子
	2回目 11:00～11:55	練 習(2分×2)	競 技 10:20～10:50
		9:40～ 9:50	成年男子
	成年男子	競 技 9:50～10:20	競 技 11:00～11:30
	少年男子		
	練 習 12:40～13:10	1／4ファイナル	ゴールドメダルマッチ
	競 技	少年女子	少年女子
	1回目 13:25～14:20	練 習(2分×2)	競 技 11:45～12:15
	2回目 14:30～15:25	10:30～10:40	少年男子
		競 技 10:40～11:05	競 技 12:25～12:55
		少年男子	成年女子
		練 習(2分×2)	競 技 13:05～13:35
		11:15～11:25	成年男子
		競 技 11:25～11:50	競 技 13:45～14:15
		12:00～12:25	
		成年女子	
		競 技	
		成年男子	
		競 技	
		12:35～13:00	
		セミファイナル	
		少年女子	
		競 技 13:10～13:35	
		少年男子	
		競 技 13:45～14:10	
		成年女子	
		競 技 14:20～14:45	
		成年男子	
		競 技 14:55～15:20	

種別個人表彰式	10月 5日（月）16時00分	カクヒログループアスレチックスタジアム
表 彰 式	10月 7日（水）15時00分	カクヒログループアスレチックスタジアム

※ 用具検査は、10月 4日（日）13時00分から15時00分までに練習会場で行います。

練習会場は、10月 4日（日）から10月 7日（水）まで新青森県総合運動公園 投てき・アーチェリー場に開設します。

開設時間は、原則として8時30分から16時00分まで。 但し、7日（水）のみ8時30分から11時30分までとなります。

式次第

種別個人表彰式	
日時	令和8年10月5日（月）
開式	16時00分
会場	カクヒログループアスレチックスタジアム
順序	式次第
	整列完了
1	開式通告
2	種別個人成績発表・賞状授与・メダル授与
3	青の煌めき賞発表
4	開催地市長あいさつ
5	閉式通告
6	選手団解散

種別団体並びに総合表彰式	
日時	令和8年10月7日（水）
開式	15時00分
会場	カクヒログループアスレチックスタジアム
順序	式次第
	整列完了
1	開式通告
2	種別団体成績発表・賞状授与・メダル授与・副賞授与
3	総合成績発表・表彰状授与・大会会長トロフィー授与・副賞授与
4	競技会会長あいさつ
5	歓送のことば
6	感謝状贈呈
7	競技会終了宣言
8	閉式通告
9	選手団解散

都道府県参加人数一覧表

ブロック	種別 県名	監督	参加選手数				計	ブロック	種別 県名	監督	参加選手数				計
			成年男子	成年女子	少年男子	少年女子					成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	
北海道	北海道	2	3	3	3	3	14	近畿	滋賀県	2		3	3	3	11
東北	岩手県	1		3		3	7		京都府	1		3			4
	宮城県	1	3			3	7		大阪府	2	3	3	3		11
	秋田県	1		3	3		7		兵庫県	1	3			3	7
	山形県	1	3				4		奈良県	1	3				4
	福島県	1			3		4		和歌山県						0
	関東	茨城県	1		3				4	中国	鳥取県	1		3	
栃木県							0	島根県							0
群馬県							0	岡山県	2		3	3	3		11
埼玉県		1	3				4	広島県	2		3	3		3	11
千葉県		2	3	3	3		11	山口県							0
東京都		2	3	3		3	11	四国	香川県		2	3	3	3	
神奈川県		2	3	3	3	3	14		徳島県						0
山梨県							0		愛媛県	2	3	3		3	11
北信越	新潟県						0		高知県						0
	長野県	1	3				4	九州	福岡県	2	3	3	3		11
	富山県	2	3	3		3	11		佐賀県	1		3		3	7
	石川県	1			3		4		長崎県	1	3				4
	福井県	1	3	3			7		熊本県						0
	東海	静岡県	1		3				4	大分県	1	3	3		
愛知県		1	3		3		7		宮崎県	1	3			3	7
三重県							0		鹿児島県	1		3	3		7
岐阜県		2	3	3		3	11		沖縄県						0
									開催県	青森県	2	3	3	3	3
								参加総数		49	72	72	42	42	277

参加選手一覧(監督・選手)

都道府県	監督	成年男子選手	成年女子選手	少年男子選手	少年女子選手
北海道	高橋 伸章 中村 梨沙子	中村 暁至 太田 琉偉 米倉 慶樹	松嶋 絹花 影山 恵 田中 詩乃	山沢 怜央 松井 凜斗 山下 哲郎	大隈 瑞生 齊藤 胡果 佐藤 心菜
青森県	酒田 和彦 藤田 未来也	白戸 渉 沼尾 大輝 阿部 由暉	小笠原 瞳 阿保 ナナ 福土 ちひろ	阿部 朔也 阿部 晟也 安齋 希	相澤 結桜 白戸 萌々花 横山 歌凜
岩手県	小山 裕康		小野寺 まどか 川渕 真弓 吉田 姫羅		新沼 碧 菅野 里音 藤井 優花
宮城県	藤本 朱子	鈴木 海瑠 森本 大介 千葉 凌也			関口 結唯 我妻 悠愛 佐藤 結
秋田県	伊藤 佳子		佐藤 彩来 小田嶋 美和 馬場 彩乃	佐藤 滉馬 伊藤 暖啓 伊藤 夏輝	
山形県	大野 博通	照井 翔太 松永 旺大 佐藤 凜太郎			
福島県	上田 訓久			井戸川 大哉 佐藤 諒磨 菅野 翔太	
茨城県	長谷川 貴典		嶋田 葵 塙 瑞稀 佐藤 有彩		
埼玉県	柴田 雄一郎	桑江 良斗 藤井 望 澤田 桃太			
千葉県	広田 和也 小森 政之	関口 滉都 千葉 善 松延 晴仁	吉留 光咲 長原 智夏 佐藤 春菜	鈴木 陽向 加藤 大智 田中 斗梧	
東京都	齊藤 未央 齊藤 彩香	武内 俊秀 河西 大心 松田 光太郎	宮野 文 古庄 千陽子 桜田 みちる		小森 渉未 佐々木 柑奈 園田 走夏
神奈川県	川村 栄一 池田 幸一	後藤 悠寿 浦田 唯 宮本 和秀	竹井 月渚 太田 琴音 林 優奈	小川 蓮音 粕田 渚 吉田 維心	丸山 花音 福永 鈴 大津 はるか

参加選手一覧(監督・選手)

都道府県	監督	成年男子選手	成年女子選手	少年男子選手	少年女子選手
長野県	宮 原 雅	白 井 航 惺 小 林 駿 斗 丸 山 貴 之			
富山県	前 本 卓 上 田 哲 治	八 幡 遥 真 橋 鼓 太 朗 白 川 仁	魚 津 知 里 道 添 彩 芽 纓 坂 優 來		流 小 夏 細 江 文 乃 前本 有希奈
石川県	山 首 一 恵			森 田 貴 志 西 永 杷 巧 當 麻 伊 歩 希	
福井県	小 林 朋 史	今 井 雅 樹 杉 尾 知 輝 山 田 奨 眞	西 嶋 詩 緒 里 ソアレ ス アイラ 黒 田 蒼 衣		
静岡県	樋 口 弘 恵		杉 本 智 美 渡 邊 麻 央 鈴 木 麻 優 子		
愛知県	新 海 彩	武 藤 弘 樹 戸 松 大 輔 舟 橋 悠 矢		川 村 幸 輝 落 畑 颯 太 木 口 怜	
岐阜県	本 間 隼 人 鷺 見 益 男	斉 藤 史 弥 澤 田 つ く し 阪 尾 尚 優 汰	今 井 希 海 西 村 紗 芳 橋 本 青 依		藤 吉 胡 歩 野 村 光 服 部 明 日 生
滋賀県	吉 瀧 拓 真 仲 田 善 裕		中 川 茉 穂 佐 々 木 心 音 仲 田 聖	大 橋 陸 冬 今 堀 惺 也 中 本 大 地	上 柳 結 加 田 中 柚 葵 村 山 礼
京都府	永 井 朝 子		安 久 詩 乃 山 本 勇 気 福 岡 令 菜		
大阪府	古 川 高 晴 守 屋 龍 一	門 澤 稜 木 下 徹 大 丸 山 優 芽	山 田 梨 乃 徳 山 晃 以 西 村 遼	北 口 蒼 人 田 中 大 結 田 中 楓 峨	
兵庫県	末 口 広 宣	林 健 太 郎 天 川 翔 太 郎 茶 畑 颯 土			上 治 ゆ き の 棕 野 葵 松 下 奏 音
奈良県	阿 部 陽 介	吉 田 悠 人 大 隅 一 樹 岩 崎 智 仁			

参加選手一覧(監督・選手)

都道府県	監督	成年男子選手	成年女子選手	少年男子選手	少年女子選手
鳥取県	前田 隆之介		平 美 香 樋口 こころ 中尾 絵梨		
岡山県	溝井 利和 駒場 利生	中西 絢哉 宮田 楽都 大泉 龍晴	林 若 奈 居樹 佳奈江 奥田 梨琴	原口 征也 加藤 瑛智 大森 貴彩雅	
広島県	泉 雄 也 才原 光平	青島 鉄也 伊藤 魁晟 河田 悠希	樽本 邑里 毛利 愛奈 滝廣 希美		末重 実夢 北風 奈々 黒瀬 瑠菜
香川県	宮武 孝明 吉田 忍	吉田 舜 橘 航佑 小山 泰季	長尾 朋実 平尾 彩華 平田 渚々美	宮川 隼 高橋 侑聖 中村 大河	
愛媛県	長谷川 明夫 若藤 綺英羅	角田 鉄平 長谷川 廉 片上 楓也	鈴木 さくら 黒田 彩夏 勝本 由奈		渡邊 果夢 村上 玲 小野 心愛
福岡県	中西 郁 川崎 和磨	山口 颯太 興野 拓夢 白石 拓麻	安永 さくら 野田 紗月 青木 風歌	高田 顕照 大塚 音弥 松尾 飛那汰	
佐賀県	打越 大輔		佐藤 恵理子 宇都宮 さえ 宮原 唯希		鶴 由紀乃 吉村 葵 大塚 優
長崎県	前田 貴史	岩永 知大 前川 祥多郎 笠井 悠斗			
大分県	天野 良太	豊島 拓実 芦刈 隼人 安東 颯斗	朝久野 奈波 園田 稚 加藤 綾乃		
宮崎県	近藤 伸哉	石井 佑汰 田口 惣一郎 川崎 凌助			中西 凜桜 夏田 楓珠美 藤原 凜寧
鹿児島県	米倉 雅		大田 楓子 泉 華蓮 郷之丸 和葉	中袴田 遊 吉留 吾紳 有村 蒼弥	

立 ち 順 一 覧 表

クオリフィケーションラウンド

10月5日

種 別	成 年 女 子																							
的 番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
A 立	広島			福井			北海道			京都			秋田			岩手			富山			鳥取		
B 立	香川			静岡			大分			岐阜			大阪			愛媛			岡山			千葉		
C 立	青森			佐賀			福岡			茨城			神奈川			鹿児島			東京			滋賀		

クオリフィケーションラウンド

10月5日

種 別	少 年 女 子															
的 番	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
A 立	愛媛			東京			広島			青森			岩手			
B 立	佐賀			兵庫			北海道			宮城			神奈川			
C 立	滋賀			宮崎			岐阜			富山			-			

クオリフィケーションラウンド

10月5日

種 別	成 年 男 子																							
的 番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
A 立	宮城			東京			奈良			青森			富山			愛媛			宮崎			大分		
B 立	広島			福岡			大阪			長崎			岐阜			兵庫			香川			福井		
C 立	山形			岡山			神奈川			長野			千葉			埼玉			愛知			北海道		

クオリフィケーションラウンド

10月5日

種 別	少 年 男 子															
的 番	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
A 立	神奈川			鹿児島			香川			愛知			-			
B 立	北海道			福島			秋田			岡山			滋賀			
C 立	石川			青森			大阪			千葉			福岡			

成年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
北海道	7-A	7	マ ツ シ マ キ ヌ カ 松 嶋 絹 花 帯 広 市 役 所					()
	8-A	8	カ ゲ ヤ マ メ グ ミ 影 山 恵 千 歳 市 立 北 進 小 学 校 (教)					
	9-A	9	タ ナ カ シ ノ 田 中 詩 乃 北 海 学 園 大 学					
青森県	1-C	1	オ ガ サ ワ ラ ヒ ト ミ 小 笠 原 瞳 第 一 生 命 保 険 三 沢 営 業 オ フ ィ ス					()
	2-C	2	ア ボ ナ ナ 阿 保 ナ ナ 近 畿 大 学					
	3-C	3	フ ク シ チ ヒ ロ 福 士 ち ひ ろ 日 本 体 育 大 学					
岩手県	16-A	16	オ ノ デ ラ マ ド カ 小 野 寺 ま ど か 雫 石 町 役 場					()
	17-A	17	カ ワ ブ チ マ ユ ミ 川 渕 真 弓 K.M.Lアカデミーアーチェリークラブ岩手					
	18-A	18	ヨ シ ダ キ ラ 吉 田 姫 羅 東 京 国 際 大 学					
秋田県	13-A	13	サ ト ウ サ キ 佐 藤 彩 来 筑 波 大 学					()
	14-A	14	オ ダ シ マ ミ ワ 小 田 嶋 美 和 秋 田 県 庁					
	15-A	15	パ バ ア ヤ ノ 馬 場 彩 乃 法 政 大 学					
茨城県	10-C	10	シ マ ダ ア オ イ 嶋 田 葵 東 京 国 際 大 学					()
	11-C	11	ハ ナ ワ ミ ズ キ 塙 瑞 稀 学 習 院 大 学					
	12-C	12	サ ト ウ ユ ア 佐 藤 有 彩 法 政 大 学					

成年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
千葉県	22-B	22	ヨシドメミサキ 吉留光咲 千葉県警察					()
	23-B	23	ナガハラチナツ 長原智夏 日本大学					
	24-B	24	サトウハルナ 佐藤春菜 立教大学					
東京都	19-C	19	ミヤノアヤ 宮野文 慶應義塾大学					()
	20-C	20	フルシヨウチヨコ 古庄千陽子 早稲田大学					
	21-C	21	サクラダミチル 桜田みちる 東京国際大学					
神奈川県	13-C	13	タケイルナ 竹井月渚 慶應義塾大学					()
	14-C	14	オオタコトネ 太田琴音 法政大学					
	15-C	15	ハヤシユウナ 林優奈 立教大学					
富山県	19-A	19	ウオヅチサト 魚津知里 黒部市立たかせ小学校(教)					()
	20-A	20	ミチゾエアヤメ 道添彩芽 近畿大学					
	21-A	21	オザカユラ 纓坂優来 近畿大学					
福井県	4-A	4	ニシジマシオリ 西嶋詩緒里 福井県立羽水高等学校(教)					()
	5-A	5	ソアレスアイラ ソアレスアイラ (学)国際ビジネス学院					
	6-A	6	クロダアオイ 黒田蒼衣 龍谷大学					

成年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
静岡県	4-B	4	スギモト トモミ 杉本 智美 (株) テクノエレベーター					()
	5-B	5	ワタナベ マオ 渡邊 麻央 城北信用金庫					
	6-B	6	スズキ マユコ 鈴木 麻優子 慶應義塾大学					
岐阜県	10-B	10	イマ イキア 今井 希海 近畿大学					()
	11-B	11	ニシムラ サホ 西村 紗芳 株式会社セイノー商事					
	12-B	12	ハシモト アオイ 橋本 青依 立命館大学					
滋賀県	22-C	22	ナカガワ マホ 中川 茉穂 近畿大学					()
	23-C	23	ササキ ココネ 佐々木 心音 日本体育大学					
	24-C	24	ナカタ ヒジリ 仲田 聖 関西大学					
京都府	10-A	10	アグウ タノ 安久 詩乃 株式会社堀場製作所					()
	11-A	11	ヤマモト ユウキ 山本 勇氣 株式会社堀場製作所					
	12-A	12	フクオカ レナ 福岡 令菜 同志社大学					
大阪府	13-B	13	ヤマダ リノ 山田 梨乃 関西大学 大学院					()
	14-B	14	トクヤマ アイ 徳山 晃以 近畿大学					
	15-B	15	ニシムラ ハルカ 西村 遼 愛知産業大学					

成年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
鳥取県	22-A	22	タイラミカ 平 美 香 社会福祉法人養和会					()
	23-A	23	ヒグチココロ 樋口 ころろ 近畿大学					
	24-A	24	ナカオエリ 中尾 絵梨 近畿大学					
岡山県	19-B	19	ハヤシワカナ 林 若 奈 同志社大学					()
	20-B	20	スエキカナエ 居樹 佳奈江 自衛隊体育学校					
	21-B	21	オクダリコ 奥田 梨琴 吉備国際大学					
広島県	1-A	1	タルモトユウリ 樽本 邑里 株式会社エディオン					()
	2-A	2	モウリアイナ 毛利 愛奈 日本体育大学					
	3-A	3	タキヒロノゾミ 滝廣 希美 日本体育大学					
香川県	1-B	1	ナガオトモミ 長尾 朋実 梅花女子大学					()
	2-B	2	ヒラオアヤカ 平尾 彩華 日本体育大学					
	3-B	3	ヒラタナナミ 平田 渚々美 甲南女子大学					
愛媛県	16-B	16	スズキサクラ 鈴木 さくら 同志社大学					()
	17-B	17	クロダアヤカ 黒田 彩夏 東京国際大学					
	18-B	18	カツモトユイナ 勝本 由奈 松山東雲中学・高等学校(教)					

成年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
福岡県	7-C	7	ヤ ス ナ ガ サ ク ラ 安永 さくら 近 畿 大 学					()
	8-C	8	ノ ダ サ ツ キ 野田 紗月 髙 ミ キ ハ ウ ス					
	9-C	9	ア オ キ フ ウ カ 青木 風歌 日 本 体 育 大 学					
佐賀県	4-C	4	サ ト ウ エ リ コ 佐藤 恵理子 佐賀県アーチェリー協会					()
	5-C	5	ウ ツ ノ ミ ヤ サ エ 宇都宮 さえ 百 武 整 形 外 科 病 院					
	6-C	6	ミ ヤ ハ ラ ユ キ 宮原 唯希 からつ医療福祉センター					
大分県	7-B	7	ア サ ク ノ ナ ナ ミ 朝久野 奈波 日 本 建 設 (株)					()
	8-B	8	ソ ノ ダ ワ カ 園田 稚 (株) デンソーソリューション					
	9-B	9	カ ト ウ ア ヤ ノ 加藤 綾乃 (株) ダ イ プ ロ					
鹿児島県	16-C	16	オ オ タ フ ウ コ 大田 楓子 近 畿 大 学					()
	17-C	17	イ ズ ミ カ レ ン 泉 華 蓮 近 畿 大 学					
	18-C	18	ゴ ウ ノ マ ル カ ズ ハ 郷之丸 和葉 熊 本 大 学					

少年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
北海道	31-B	31	オ オ ク マ ミ ズ キ 大 隈 瑞 生 市立札幌啓北商業高等学校					()
	32-B	32	サ イ ト ウ コ ノ カ 齊 藤 胡 果 北海道帯広三条高等学校					
	33-B	33	サ ト ウ コ コ ナ 佐 藤 心 菜 市立札幌啓北商業高等学校					
青森県	34-A	34	ア イ ザ ワ ユ イ ナ 相 澤 結 桜 青森山田高等学校					()
	35-A	35	シ ラ ト モ モ カ 白 戸 萌々花 青森山田高等学校					
	36-A	36	ヨ コ ヤ マ カ リ ン 横 山 歌 凜 青森山田高等学校					
岩手県	37-A	37	ニ イ ス マ ア オ 新 沼 碧 盛岡白百合学園高等学校					()
	38-A	38	カ シ ノ リ ノ 菅 野 里 音 岩手県立花巻北高等学校					
	39-A	39	フ ジ イ ユ ウ カ 藤 井 優 花 盛岡白百合学園高等学校					
宮城県	34-B	34	セ キ グ チ ユ イ 関 口 結 唯 仙台二華高等学校					()
	35-B	35	ア ガ ツ マ ユ ウ ナ 我 妻 悠 愛 東陵高等学校					
	36-B	36	サ ト ウ ユ イ 佐 藤 結 東陵高等学校					
東京都	28-A	28	コ モ リ ア ユ ミ 小 森 渉 未 東京都立山崎高等学校					()
	29-A	29	サ サ キ カ ン ナ 佐々木 柑奈 東京都立足立新田高等学校					
	30-A	30	ソ ノ ダ ジ ユ ハ 園 田 走 夏 サレジアン国際学園中学校					

少年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
神奈川県	37-B	37	丸山花音 横浜高等学校					()
	38-B	38	福永鈴 湘南白百合学園高等学校					
	39-B	39	大津はるか 市立横須賀総合高等学校					
富山県	34-C	34	流小夏 桜井高等学校					()
	35-C	35	細江文乃 桜井高等学校					
	36-C	36	前本有希奈 桜井高等学校					
岐阜県	31-C	31	藤吉胡歩 聖マリア女学院高等学校					()
	32-C	32	野村光 聖マリア女学院高等学校					
	33-C	33	服部明日生 聖マリア女学院高等学校					
滋賀県	25-C	25	上柳結加 東京都立足立新田高等学校					()
	26-C	26	田中柚葵 滋賀県立草津東高等学校					
	27-C	27	村山礼 滋賀県立大津商業高等学校					
兵庫県	28-B	28	上治ゆきの 滝川第二高等学校					()
	29-B	29	棕野葵 須磨学園高等学校					
	30-B	30	松下奏音 須磨学園高等学校					

少年女子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
広島県	31-A	31	ス エ シ ゲ ミ ユ 末 重 実 夢 広島県立可部高等学校					()
	32-A	32	キ タ カ ゼ ナ ナ 北 風 奈 々 広島県立呉宮原高等学校					
	33-A	33	ク ロ セ ル ナ 黒 瀬 瑠 菜 広島県立海田高等学校					
愛媛県	25-A	25	ワ タ ナ ベ カ ノ ン 渡 邊 果 夢 愛媛県立今治東中等教育学校					()
	26-A	26	ム ラ カ ミ レ イ 村 上 玲 愛媛県立今治東中等教育学校					
	27-A	27	オ ノ コ コ ア 小 野 心 愛 松山東雲中学・高等学校					
佐賀県	25-B	25	ツ ル ユ キ ノ 鶴 由 紀 乃 佐賀県立唐津南高等学校					()
	26-B	26	ヨ シ ム ラ ア オ イ 吉 村 葵 佐賀県立高志館高等学校					
	27-B	27	オ オ ツ カ ユ ウ 大 塚 優 佐賀県立厳木高等学校					
宮崎県	28-C	28	ナ カ ニ シ リ オ 中 西 凜 桜 県立延岡星雲高等学校					()
	29-C	29	ナ ツ タ カ ス ミ 夏 田 楓 珠 美 県立延岡星雲高等学校					
	30-C	30	フ ジ ワ ラ リ シ ネ 藤 原 凜 寧 県立延岡星雲高等学校					

成年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
北海道	22-C	22	ナカムラサトシ 中村 暁至 東京国際大学					()
	23-C	23	オオタルイ 太田 琉偉 東京国際大学					
	24-C	24	ヨネクラヨシキ 米倉 慶樹 東京国際大学					
青森県	10-A	10	シラトワタル 白戸 渉 株式会社ユアテック					()
	11-A	11	スマオダイキ 沼尾 大輝 東京国際大学					
	12-A	12	アベユウキ 阿部 由暉 近畿大学					
宮城県	1-A	1	スズキカイル 鈴木 海瑠 東北学院大学					()
	2-A	2	モリモトダイスケ 森本 大介 東北大学					
	3-A	3	チバリオウヤ 千葉 凌也 東京国際大学					
山形県	1-C	1	テルイショウタ 照井 翔太 東洋技検株式会社					()
	2-C	2	マツナガオウヒロ 松永 旺大 山形ダイハツ販売株式会社					
	3-C	3	サトウリンタロウ 佐藤 凜太郎 日本体育大学					
埼玉県	16-C	16	クワエヨシト 桑江 良斗 自衛隊体育学校					()
	17-C	17	フジイノゾミ 藤井 望 自衛隊体育学校					
	18-C	18	サワダモモタ 澤田 桃太 東京国際大学(教)					

成年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
千葉県	13-C	13	セキグチヒロト 関口 滉都 日本体育大学					()
	14-C	14	チバゼン 千葉 善 長崎国際大学					
	15-C	15	マツノブハルト 松延 晴仁 慶應義塾大学					
東京都	4-A	4	タケウチトシヒデ 武内 俊秀 同志社大学					()
	5-A	5	カワニシダイシン 河西 大心 慶應義塾大学					
	6-A	6	マツダコウタロウ 松田 光太郎 宇都宮市アーチェリー協会					
神奈川県	7-C	7	ゴトウハルヒサ 後藤 悠寿 明治学院大学					()
	8-C	8	ウラタユイ 浦田 唯 立教大学					
	9-C	9	ミヤモトワシユウ 宮本 和秀 拓殖大学					
長野県	10-C	10	シライコウセイ 白井 航惺 近畿大学					()
	11-C	11	コバヤシハヤト 小林 駿斗 神戸学院大学					
	12-C	12	マルヤマタカユキ 丸山 貴之 フランスベッド株式会社					
富山県	13-A	13	ヤハタハルマ 八幡 遥真 アイシン新和(株)					()
	14-A	14	タチバナコタロウ 橘 鼓太朗 近畿大学					
	15-A	15	シラカワジン 白川 仁 近畿大学					

成年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
福井県	22-B	22	イ マ イ マ サ キ 今井 雅樹 福井県立鯖江高等学校(職)					()
	23-B	23	ス ギ オ ト モ キ 杉尾 知輝 福井県立足羽高等学校(職)					
	24-B	24	ヤ マ ダ シ ヨ ウ マ 山田 奨真 日本体育大学					
愛知県	19-C	19	ム ト ウ ヒ ロ キ 武藤 弘樹 トヨタ自動車株式会社					()
	20-C	20	ト マ ツ ダ イ ス ケ 戸松 大輔 株式会社オーワ					
	21-C	21	フ ナ ハ シ ユ ウ ヤ 舟橋 悠矢 日本特殊陶業株式会社					
岐阜県	13-B	13	サ イ ト ウ フ ミ ヤ 斉藤 史弥 日本体育大学					()
	14-B	14	サ ワ ダ ツ ク シ 澤田 つくし サンメッセ株式会社					
	15-B	15	サ カ オ ナ ユ タ 阪尾 尚優汰 日本体育大学					
大阪府	7-B	7	モ ン ザ ワ リ ヨ ウ 門澤 稜 NTTデータセキスイシステムズ					()
	8-B	8	キ ノ シ タ テ ツ タ 木下 徹大 同志社大学					
	9-B	9	マ ル ヤ マ ユ ウ ガ 丸山 優芽 京都産業大学					
兵庫県	16-B	16	ハ ヤ シ ケ ン タ ロ ウ 林 健太郎 近畿大学					()
	17-B	17	ア マ カ ワ シ ヨ ウ タ ロ ウ 天川 翔太郎 同志社大学					
	18-B	18	チ ャ バ タ ハ ヤ ト 茶畑 颯土 同志社大学					

成年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
奈良県	7-A	7	ヨ シ ダ ユ ウ ト 吉 田 悠 人 同 志 社 大 学					()
	8-A	8	オ オ ス ミ カ ズ キ 大 隅 一 樹 株 式 会 社 プ リ ゼ ス ト ン					
	9-A	9	イ ワ サ キ ト モ ヒ ト 岩 崎 智 仁 オムロンソーシャルソリューションズ株式会社					
岡山県	4-C	4	ナ カ ニ シ ジ ユ ン ヤ 中 西 絢 哉 シ ー ア ー ル 物 流 株 式 会 社					()
	5-C	5	ミ ヤ タ ガ ク ト 宮 田 楽 都 一般社団法人ファジアーノ岡山スポーツクラブ					
	6-C	6	オ オ イ ズ ミ リ ユ ウ セ イ 大 泉 龍 晴 シ ー ア ー ル 物 流 株 式 会 社					
広島県	1-B	1	ア オ シ マ テ ツ ヤ 青 島 鉄 也 株 式 会 社 エ デ ィ オ ン					()
	2-B	2	イ ト ウ カ イ セ イ 伊 藤 魁 晟 自 衛 隊 体 育 学 校					
	3-B	3	カ ワ タ ユ ウ キ 河 田 悠 希 株 式 会 社 エ デ ィ オ ン					
香川県	19-B	19	ヨ シ ダ シ ユ ン 吉 田 舜 愛 知 産 業 大 学					()
	20-B	20	タ チ バ ナ コ ウ ス ケ 橘 航 佑 京 都 産 業 大 学					
	21-B	21	コ ヤ マ タ イ キ 小 山 泰 季 京 都 産 業 大 学					
愛媛県	16-A	16	ス ミ ダ テ ッ ペ イ 角 田 鉄 平 浅 川 造 船					()
	17-A	17	ハ セ ガ ワ レ ン 長 谷 川 廉 愛知県競技力向上対策本部					
	18-A	18	カ タ カ ミ フ ウ ヤ 片 上 楓 也 B E M A C					

成年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
福岡県	4-B	4	山口 颯太 筑波大学					()
	5-B	5	興野 拓夢 近畿大学					
	6-B	6	白石 拓麻 福岡県立小倉南高等学校(教)					
長崎県	10-B	10	岩永 知大 近畿大学					()
	11-B	11	前川 祥多郎 近畿大学					
	12-B	12	笠井 悠斗 近畿大学					
大分県	22-A	22	豊島 拓実 大分県アーチェリー協会					()
	23-A	23	芦刈 隼人 日本体育大学					
	24-A	24	安東 颯斗 長崎国際大学					
宮崎県	19-A	19	石井 佑汰 宮崎県教育委員会					()
	20-A	20	田口 惣一郎 県立延岡星雲高等学校(教)					
	21-A	21	川崎 凌助 長崎国際大学					

少年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
北海道	25-B	25	ヤマサワ レオ 山 沢 怜 央 北海道札幌月寒高等学校					()
	26-B	26	マツイ リント 松 井 凜 斗 北海道札幌啓成高等学校					
	27-B	27	ヤマシタ テツロウ 山 下 哲 郎 北海道札幌啓成高等学校					
青森県	28-C	28	アベ サクヤ 阿 部 朔 也 青森山田高等学校					()
	29-C	29	アベ セイヤ 阿 部 晟 也 青森山田高等学校					
	30-C	30	アンザイ ノゾム 安 齋 希 青森山田高等学校					
秋田県	31-B	31	サトウ コウマ 佐 藤 滉 馬 秋田県立秋田南高等学校					()
	32-B	32	イトウ マヒロ 伊 藤 暖 啓 秋田県立秋田南高等学校					
	33-B	33	イトウ ナツキ 伊 藤 夏 輝 秋田県立秋田南高等学校					
福島県	28-B	28	イドガワ ヒロヤ 井 戸 川 大 哉 福島県立田村高等学校					()
	29-B	29	サトウ リョウマ 佐 藤 諒 磨 福島県立福島高等学校					
	30-B	30	カンノ ショウタ 菅 野 翔 太 福島県立福島高等学校					
千葉県	34-C	34	スズキ ヒナタ 鈴 木 陽 向 千葉県立津田沼高等学校					()
	35-C	35	カトウ タイチ 加 藤 大 智 千葉県立磯辺高等学校					
	36-C	36	タナカ トウゴ 田 中 斗 梧 柏市立柏の葉中学校					

少年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
神奈川県	25-A	25	オ ガ ワ レ ン ト 小 川 蓮 音 市立横須賀総合高等学校					()
	26-A	26	カ ス ダ ナ ギ サ 粕 田 渚 市立横須賀総合高等学校					
	27-A	27	ヨ シ ダ イ シ ン 吉 田 維 心 横浜高等学校					
石川県	25-C	25	モ リ タ タ カ シ 森 田 貴 志 石川県立金沢西高等学校					()
	26-C	26	ニ シ ナ ガ ハ ク 西 永 杷 巧 津幡町立津幡南中学校					
	27-C	27	ト ウ マ イ ブ キ 當 麻 伊 歩 希 石川県立金沢向陽高等学校					
愛知県	34-A	34	カ ワ ム ラ ユ キ テ ル 川 村 幸 輝 愛知産業大学三河高等学校					()
	35-A	35	オ チ ハ タ ソ ウ タ 落 畑 颯 太 愛知産業大学三河高等学校					
	36-A	36	キ グ チ レ イ 木 口 怜 東海高等学校					
滋賀県	37-B	37	オ オ ハ シ リ ク ト 大 橋 陸 冬 滋賀県立草津東高等学校					()
	38-B	38	イ マ ホ リ セ イ ヤ 今 堀 惺 也 滋賀県立河瀬高等学校					
	39-B	39	ナ カ モ ト ダ イ チ 中 本 大 地 滋賀県立大津商業高等学校					
大阪府	31-C	31	キ タ グ チ ア オ ト 北 口 蒼 人 桃山学院高等学校					()
	32-C	32	タ ナ カ ヒ ロ ム 田 中 大 結 近畿大学附属高等学校					
	33-C	33	タ ナ カ フ ウ ガ 田 中 楓 峨 近畿大学附属高等学校					

少年男子組合せ

都道府県	競技者番号	標的番号	選手名	得点		合計		団体合計
			(勤務先・学校名)	1st・R	2nd・R	合計	順位	(順位)
岡山県	34-B	34	ハラグチ マサヤ 原 口 征 也 岡山県立備前緑陽高等学校					()
	35-B	35	カトウ エイチ 加 藤 瑛 智 岡山理科大学附属高等学校					
	36-B	36	オオモリ タイガ 大 森 貴 彩 雅 岡山県立備前緑陽高等学校					
香川県	31-A	31	ミヤカワ シュン 宮 川 隼 県立香川中央高等学校					()
	32-A	32	タカハシ ユウセイ 高 橋 侑 聖 県立高松西高等学校					
	33-A	33	ナカム ラ タイガ 中 村 大 河 県立香川中央高等学校					
福岡県	37-C	37	タカタ ケンショウ 高 田 顕 照 福岡県立柏陵高等学校					()
	38-C	38	オオツカ オトヤ 大 塚 音 弥 福岡県立柏陵高等学校					
	39-C	39	マツ オ ヒ ナ タ 松 尾 飛 那 汰 福岡県立柏陵高等学校					
鹿児島県	28-A	28	ナカハカ マダ ユウ 中 袴 田 遊 鹿児島県立串木野高等学校					()
	29-A	29	ヨシド メ ア シ ン 吉 留 吾 紳 鹿児島県立串木野高等学校					
	30-A	30	アリム ラ ソ ウ ヤ 有 村 蒼 弥 鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校					

イリミネーション～ファイナルラウンド組合せ表

【成年女子】		〔団体の部〕				
(都道府県名) と クオリフィケーションラウンド順位		10月6日(火)			10月7日(水)	
		1/8イリミネーション	1/4ファイナル	セミファイナル	ゴールドメダルマッチ	
(1 位)		①			① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯	
(1 6 位)		②	①			
(9 位)		③	②	①		
(8 位)		④				
(5 位)		⑤				
(1 2 位)		⑥	③	②		
(1 3 位)		⑦	④			
(4 位)		⑧				
(3 位)		⑨				
(1 4 位)		⑩	⑤			
(1 1 位)		⑪	⑥	③		
(6 位)		⑫		②		
(7 位)		⑬				
(1 0 位)		⑭	⑦	④		
(1 5 位)		⑮	⑧			
(2 位)		⑯				
					ブロンズメダルマッチ	
					セミファイナル敗退チーム	
					①	
					②	
					ブロンズメダル	

※ ①～⑯は的番号を示す。

ファイナルラウンド組合せ表

【少年女子】

〔団体の部〕

(都道府県名)と クオリフィケーションラウンド順位	10月6日(火)		10月7日(水)
	1/4ファイナル	セミファイナル	ゴールドメダルマッチ
() 1位	①	①	① ゴールドメダル
() 8位	②	②	
() 5位	③	②	
() 4位	④		
() 3位	⑤	③	② ブロンズメダルマッチ ① ブロンズメダル ② ブロンズメダル
() 6位	⑥	④	
() 7位	⑦		
() 2位	⑧		
※ ①～⑧は的番号を示す。			

イリミネーション～ファイナルラウンド組合せ表

【成年男子】		〔団体の部〕				
(都道府県名) と クオリフィケーションラウンド順位		10月6日(火)			10月7日(水)	
		1/8イリミネーション	1/4ファイナル	セミファイナル	ゴールドメダルマッチ	
(1 位)		①			① ゴールドメダル ② ブロンズメダルマッチ ① ブロンズメダル ②	
(1 6 位)		②	①			
(9 位)		③	②	①		
(8 位)		④				
(5 位)		⑤				
(1 2 位)		⑥	③	②		
(1 3 位)		⑦	④			
(4 位)		⑧				
(3 位)		⑨				
(1 4 位)		⑩	⑤			
(1 1 位)		⑪	⑥	③		
(6 位)		⑫				
(7 位)		⑬				
(1 0 位)		⑭	⑦	④		
(1 5 位)		⑮	⑧			
(2 位)		⑯				
※ ①～⑯は的番号を示す。		セミファイナル敗退チーム			①	ブロンズメダル
		セミファイナル敗退チーム			②	ブロンズメダル

ファイナルラウンド組合せ表

【少年男子】

〔団体の部〕

(都道府県名)と クオリフィケーションラウンド順位	10月6日(火)		10月7日(水)
	1/4ファイナル	セミファイナル	ゴールドメダルマッチ
() 1 位	①	①	① ゴールドメダル
() 8 位	②		
() 5 位	③	②	
() 4 位	④		
() 3 位	⑤	③	
() 6 位	⑥		
() 7 位	⑦	④	
() 2 位	⑧		
			ブロンズメダルマッチ
セミファイナル敗退チーム			① ブロンズメダル
セミファイナル敗退チーム			② ブロンズメダル

※ ①～⑧は的番号を示す。

第80回国民スポーツ大会総合成績一覧表

-		アーチェリー競技													
都道府県名		男女総合成績(天皇杯得点)							女子総合成績(皇后杯得点)						
		順位	得点合計	競技得点	参加得点	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	順位	得点合計	競技得点	参加得点	成年女子	少年女子
1	北海道														
2	青森														
3	岩手														
4	宮城														
5	秋田														
6	山形														
7	福島														
8	茨城														
9	栃木														
10	群馬														
11	埼玉														
12	千葉														
13	東京都														
14	神奈川県														
15	山梨														
16	新潟														
17	長野														
18	富山														
19	石川														
20	福井														
21	静岡														
22	愛知														
23	三重														
24	岐阜														
25	滋賀														
26	京都														
27	大阪														
28	兵庫														
29	奈良														
30	和歌山														
31	鳥取														
32	島根														
33	岡山														
34	広島														
35	山口														
36	香川														
37	徳島														
38	愛媛														
39	高知														
40	福岡														
41	佐賀														
42	長崎														
43	熊本														
44	大分														
45	宮崎														
46	鹿児島														
47	沖縄														

アーチェリー競技について

歴史・・・始まりは狩猟

弓は旧石器時代、狩猟の道具として発達したものが起こりといわれています。これらは、南東スペインなどに残っている洞窟壁画から推測されます。

弓を大別すると、地中海型（アーチェリー）、蒙古型（和弓）、及びピンチ型の3種類に分類されます。地中海で発達したアーチェリーは、武器として古代エジプトや中世イギリスで普及しましたが、鉄砲の出現とともに衰退していきました。その後、スポーツとしてイギリス王室を中心に復活しました。ヘンリー8世は最大のアーチェリー愛好家だったといわれ、ロビン・フッドのお話もこの時代に作られました。



ターゲット（標的）競技

競技は、クォリフィケーションラウンドとイリミネーションラウンド及びファイナルラウンド（オリンピックラウンド）からなります。

（1）クォリフィケーションラウンド

男女とも 70mの距離を 36 射、2 回（72 射）射て順位を競います。

個人戦は、このラウンドで順位が決まります。団体戦は、3 人 1 組で、このラウンドでの 3 人の合計点の上位チーム（成年は 16 チーム、少年は 8 チーム）が、翌日のイリミネーションラウンドに進みます。

（2）イリミネーションラウンド

男女とも 70mの距離で 1 セット 2 分 6 射（2 射×3 名）の 4 セットマッチ（5 ポイント先取勝抜き）によるトーナメント方式で行います。

（3）ファイナルラウンド

男女とも 70mの距離で 1 セット 2 分 6 射（2 射×3 名）4 セットマッチ（5 ポイント先取勝利）のゴールドメダルマッチとブロンズメダルマッチを行います。

用具

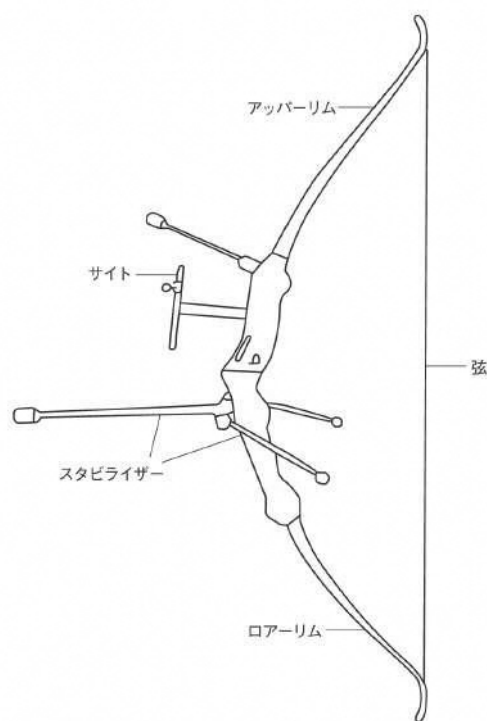
(弓)

アーチェリーの弓は、現在薄目の細長いカーボンファイバー、グラスファイバーなどを強い接着剤で張り合わせて作られており、張力や曲げに強く、反発力にも優れています。多くの選手は、ハンドル、アッパーリム及びロアーリムの3つに分解することができるテイクダウンボウを使用しています。

弓の威力は相当強く、時速 230km ぐらいで、フライト競技では 800m 以上も飛んだ記録があります。ターゲット競技に使用する弓はフライパンを突き抜けてしまう程です。

また、弓にはサイト、スタビライザーなどの補助的な装置をつけることができます。

サイト（照準器）は、ねらいを定めるためのもので、スタビライザーは、矢を射るときの衝撃を吸収するためのものです。



(弦)

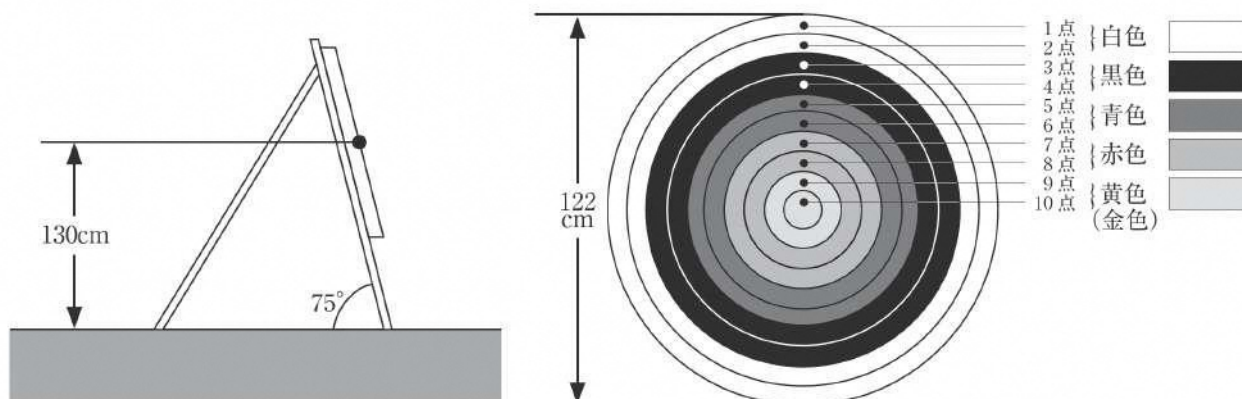
軽くて強い化学繊維を 10～20 本縫り合わせたものを使います。

(矢)

カーボンパイプのシャフトに樹脂系の羽をつけたものを使います。

(標的)

ターゲット（標的）は、直径 122cm の大きさに 5 色にくぎられており、10 段階に点数が分けられています。



過去の成績一覧

第37回		男女総合		第1位 大阪府	第2位 愛知県		第3位 東京都		女子総合		第1位 青森県・愛知県	第2位 広島県・山口県		第3位 島根県美保関町		昭和57年
種別	区分	第 1 位			第 2 位			第 3 位								
成年男子	団体	大阪	1892	A 池田 達也 643 味波 喜通 635 久保田和哉 614	東京	原嶋 永寿 森田 雅貴 A 石原 淳伍	静岡	稲川 篤郎 亀井 孝 A 川口 喜博								
	個人	松下 和幹 (和歌山) 653(316・337)			高野 昭 (新潟)			稲川 篤郎 (静岡)								
成年女子	団体	山口	1867	石津 裕子 644 岡本 英子 622 徳田美由紀 601	愛知	秋吉由美子 柴田 昌与 福井 敏子	東京	早稲田敦子 穂苅美奈子 原 一世								
	個人	石津 裕子 (山口) 644(307・337)			秋吉由美子 (愛知)			柴田 昌与 (愛知)								
少年男子	団体	大阪	1819	岐部 恭史 631 岸田 勇 595 大東 直幸 593	愛知	宮地 貴裕 久保田圭三 加藤 直樹	神奈川	小岩井成夫 石川 宏道 三村 直幹								
	個人	小岩井成夫 (神奈川) 633(302・331)			岐部 恭史 (大阪)			宮地 貴裕 (愛知)								
少年女子	団体	広島	1772	上森 典子 603 北 美由紀 590 折村 智子 579	大阪	平田 沙弓 磯江 光代 柴野 早苗	青森	杉山 郁子 横浜 祐子 上明戸茂子								
	個人	川本ともみ (島根) 631(297・334)			上森 典子 (広島)			深田ゆきみ (愛知)								
第38回		男女総合		第1位 鳥取県	第2位 群馬県		第3位 東京都・静岡県		女子総合		第1位 群馬県	第2位 東京都		第3位 広島県		昭和58年
あかぎ国体																群馬県川場村
種別	区分	第 1 位			第 2 位			第 3 位								
成年男子	団体	鳥取	1878	A 児玉 五郎 628 木村 哲二 619 隠樹 正人 631	兵庫	A 庄司 歳記 冠野 仁志 栗 栖 章	静岡	A 大河 照福 稲川 篤郎 亀井 孝								
	個人	島村 一郎 (埼玉) 644(304・340)			前川 雅俊 (宮城)			冠野 仁志 (兵庫)								
成年女子	団体	東京	1848	穂苅美奈子 618 小室 光子 590 早稲田敦子 640	兵庫	伊藤 邦栄 多田 信枝 進藤紀代子	愛知	村瀬 吉美 秋吉由美子 早川 敦子								
	個人	村瀬 吉美 (愛知) 650(313・337)			早稲田敦子 (東京)			伊藤 邦栄 (兵庫)								
少年男子	団体	鳥取	1903	山上 直之 648 新宮加寸馬 640 海地 浩樹 615	大阪	山内 和彦 嶋田 光典 北橋 信一	青森	桜庭 秀郎 伊藤 寿孝 棟方 光輝								
	個人	河合 徳之 (静岡) 650(312・338)			山上 直之 (鳥取)			新宮加寸馬 (鳥取)								
少年女子	団体	群馬	1814	林 玲子 622 長井 元子 568 真船由美子 624	青森	杉山 郁子 上明戸成子 佐々木美保子	神奈川	古田 順子 阿知波久美 相崎 芳恵								
	個人	岩波ひろみ (滋賀) 629(304・325)			杉山 郁子 (青森)			真船由美子 (群馬)								
第39回		男女総合		第1位 静岡県	第2位 鳥取県		第3位 北海道		女子総合		第1位 北海道	第2位 滋賀県		第3位 山口県		昭和59年
わかぐさ国体																奈良県三宅町
種別	区分	第 1 位			第 2 位			第 3 位								
成年男子	団体	神奈川	1965	A 川名 均 648 松下 和幹 672 山本 博 645	大阪	A 前田栄一郎 越谷 彰元 藤堂 博	静岡	A 大河 照福 古橋 照司 稲川 篤郎								
	個人	松下 和幹 (神奈川) 672(324・348)			衣簾 敏明 (長崎)			稲川 篤郎 (静岡)								
成年女子	団体	山口	1768	石津 裕子 604 佐野 英子 595 柴原由美子 569	福岡	鈴木 幸江 吉田 裕美 浦川 記子	東京	穂苅美奈子 野中志保子 早稲田敦子								
	個人	石津 裕子 (山口) 604(281・323)			佐野 英子 (山口)			野中志保子 (東京)								
少年男子	団体	鳥取	1816	海地 浩樹 621 山上 直之 594 熊澤 孝平 601	静岡	大澄 孝明 町田 卓也 杉本 幸成	和歌山	欽田 優一 井川 恵一 西岡 徹勝								
	個人	棟方 光輝 (青森) 630(297・333)			海地 浩樹 (鳥取)			町田 卓也 (静岡)								
少年女子	団体	滋賀	1780	大木 豊子 604 藤本 正美 599 堀内 由紀 577	北海道	山本 和美 三浦恵利子 村川かおり	奈良	四方 晴美 吉川 美佐 西村 知子								
	個人	児玉 晶子 (鳥取) 633(299・334)			大木 豊子 (滋賀)			藤本 正美 (滋賀)								

第40回		第1位 神奈川県		第1位 鳥取県		昭和60年	
男女総合		第2位 鳥取県		女子総合 第2位 福岡県			
わかとり国体		第3位 北海道・静岡県		第3位 北海道		鳥取県東郷町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	神奈川	1930	A 川名 均 640 松下 和幹 663 石神 泰彦 627	A 徳増 慎 古橋 照司 稲川 篤郎	東京	A 石原 淳伍 小野寺長久 森谷 稔
	個人	小野寺長久 (東京) 664(326・338)		松下 和幹 (神奈川)		稲川 篤郎 (静岡)	
成年女子	団体	福岡	1842	浦川 記子 610 近藤 貴美 635 池田 広子 597	山口 石津 裕子 小山 聡子 佐野 英子	山梨	諏訪 景子 石水 年子 大木 豊子
	個人	小山 聡子 (山口) 636(303・333)		近藤 貴美 (福岡)		石津 裕子 (山口)	
少年男子	団体	神奈川	1921	室伏優一郎 632 清水 徹也 643 井上 和宣 646	鳥取 松田 武文 駒場 利生 佐々木健二	岡山	枯木 将克 片岡 善行 大西 崇
	個人	駒場 利生 (鳥取) 646(307・339)		井上 和宣 (神奈川)		清水 徹也 (神奈川)	
少年女子	団体	鳥取	1825	児玉 晶子 646 宮根 幸恵 613 小椋 和子 566	静岡 鹿野 貞子 伊藤亜由美 中野 文枝	青森	鳥谷部郁子 苫米地由加里 四戸 正代
	個人	児玉 晶子 (鳥取) 646(302・344)		村川かおり (北海道)		宮根 幸恵 (鳥取)	
第41回		第1位 神奈川県		第1位 山梨県		昭和61年	
男女総合		第2位 山梨県		女子総合 第2位 神奈川県			
かいじ国体		第3位 北海道		第3位 北海道		山梨県敷島町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	神奈川	1998	松下 和幹 670 室伏優一郎 669 A 別府 幸治 659	鳥取 松田 武文 山上 直之 A 木村 哲二	福岡	吉村 正秀 村上 清美 水之江規之
	個人	塩田 浩一 (京都) 672(325・347)		松下 和幹 (神奈川)		室伏優一郎 (神奈川)	
成年女子	団体	神奈川	1907	児玉 晶子 652 安田みづほ 648 飯島 久代 607	山梨 大木 豊子 諏訪 景子 石水 年子	山口	石津 裕子 小山 聡子 柴原由美子
	個人	大木 豊子 (山梨) 654(311・343)		児玉 晶子 (神奈川)		安田みづほ (神奈川)	
少年男子	団体	北海道	1876	鎌田 芳彰 662 平田 正信 630 堀内 勝 584	愛知 田島 光浩 坂本圭次郎 蟹江 康	滋賀	山口 雅浩 池野 邦広 湊 充
	個人	鎌田 芳彰 (北海道) 662(325・337)		田島 光浩 (愛知)		坂本圭次郎 (愛知)	
少年女子	団体	山梨	1850	中込佐知子 636 中込 恵子 628 石川 歩 586	静岡 松原 栄子 内藤 公子 内藤 知巳	青森	姉崎優美子 小林 瑞枝 伊藤 佐和
	個人	中込佐知子 (山梨) 636(298・338)		松原 栄子 (静岡)		中込 恵子 (山梨)	
第42回		第1位 神奈川県		第1位 福岡県		昭和62年	
男女総合		第2位 沖縄県		女子総合 第2位 神奈川県・滋賀県			
海邦国体		第3位 福岡県		第3位		沖縄県宜野湾市	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	神奈川	1915	松下 和幹 655 田中喜美夫 635 A 別府 幸治 625	大阪 太田 謙治 前田栄一郎 藤堂 博	静岡	古橋 照司 稲川 篤郎 小笠原 誠
	個人	松下 和幹 (神奈川) 655(315・340)		古橋 照司 (静岡)		太田 謙治 (大阪)	
成年女子	団体	神奈川	1838	児玉 晶子 639 安田みづほ 638 飯島 久代 561	福岡 近藤 貴美 村里 栄子 浦川 記子	愛知	山首 一恵 飯田あけみ 石田 佳子
	個人	児玉 晶子 (神奈川) 639(290・349)		安田みづほ (神奈川)		村川かおり (北海道)	
少年男子	団体	沖縄	1901	高良 修一 638 新嵩 善博 635 伊佐 真和 628	神奈川 川上 憲二 高広 和弥 足立 秀樹	北海道	鎌田 芳彰 盛一 成行 桑原 勝弘
	個人	高良 修一 (沖縄) 638(304・334)		新嵩 善博 (沖縄)		高崎 誠 (福岡)	
少年女子	団体	滋賀	1857	三品加奈子 630 近藤 宜子 619 杉山美智子 608	福岡 坂田美穂子 岩山 美保 田中 聡美	静岡	中西 恵美 松原 栄子 近藤 真弓
	個人	大城 春野 (沖縄) 636(307・329)		三品加奈子 (滋賀)		松宮真由美 (福井)	

第43回		第1位 福岡県		第1位 北海道		昭和63年	
男女総合		第2位 北海道		女子総合		第2位 福岡県	
京都国体		第3位 神奈川県		第3位 京都府		京都府日吉町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	神奈川	2002	山本 博 690 松下 和幹 674 佐々木昭一 638	福岡 泉 康宏 村上 清美 養父 修司	愛媛 A 埜下 正 中田 恭弘 渡部 淳	
	個人	山本 博 (神奈川) 690(336・354)		松下 和幹 (神奈川)		吉村 正秀 (鹿児島)	
成年女子	団体	神奈川	1851	児玉 晶子 644 安田みづほ 642 山口佳代子 565	北海道 姉崎優美子 池垣 倫子 門山 美恵	京都 藤本 正美 勝山 裕子 土淵 聡子	
	個人	中川さつき (広島) 654(323・331)		児玉 晶子 (神奈川)		近藤 貴美 (福岡)	
少年男子	団体	埼玉	1875	吉田 稔 641 太田 康彦 626 新島 義和 608	広島 藤本 昌悟 中園 祐次 戸田 敦大	高知 小笠原長岳 北村 秀文 田口 誠一	
	個人	於久 直人 (滋賀) 654(312・342)		小笠原長岳 (高知)		吉田 稔 (埼玉)	
少年女子	団体	福岡	1861	岡部 由布 633 田中 聡美 619 岩山 美保 609	北海道 高田 芳江 笠井 正子 佐野利恵子	京都 小山美代子 林 康恵 福田 要子	
	個人	高田 芳江 (北海道) 642(305・337)		小山美代子 (京都)		岡部 由布 (福岡)	
第44回		第1位 北海道		第1位 北海道		平成元年	
男女総合		第2位 静岡県		女子総合		第2位 福岡県・静岡県	
はまなす国体		第3位 滋賀県・福岡県		第3位		北海道旭川市	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	静岡	1954	稲川 篤郎 666 古橋 照司 664 A 広瀬 明 624	神奈川 松下 和幹 内海 啓 A 川西 大介	奈良 A 山城信二郎 上村 乃太 米原 俊章	
	個人	松下 和幹 (神奈川) 675(327・348)		稲川 篤郎 (静岡)		古橋 照司 (静岡)	
成年女子	団体	滋賀	1859	大木 豊子 647 三品加奈子 628 小田 洋子 584	北海道 池垣 倫子 村川かおり 姉崎優美子	福岡 近藤 貴美 香月 京子 森永 公子	
	個人	池垣 倫子 (北海道) 652(317・335)		大木 豊子 (滋賀)		三品加奈子 (滋賀)	
少年男子	団体	滋賀	1911	赤井 雅宏 648 於久 直人 646 高島 竜象 617	東京 大橋 亨 小櫃 豊彦 相沢 真樹	青森 大山 春秋 室谷 広樹 宮本 健司	
	個人	大橋 亨 (東京) 649(313・336)		赤井 雅宏 (滋賀)		於久 直人 (滋賀)	
少年女子	団体	北海道	1885	高田 芳江 638 佐野利恵子 624 山田奈央子 623	広島 長見みどり 栗森 倫代 守屋いづみ	兵庫 池田裕紀子 木場美千代 山下 尚子	
	個人	長見みどり (広島) 641(304・337)		高田 芳江 (北海道)		井上鹿代子 (静岡)	
第45回		第1位 福岡県		第1位 福岡県・静岡県		平成2年	
男女総合		第2位 京都府		女子総合		第2位	
とびうめ国体		第3位 広島県		第3位 埼玉県・京都府・広島県		福岡県北九州市	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	京都	1966	上田 訓久 666 A 西井 賢一 654 尾原 大三 646	広島 A 福島 徹 藤本 昌悟 松本 昌昭	愛知 山田 康宏 蟹江 康 A 岡本 邦雄	
	個人	西川 定 (佐賀) 667(320・347)		上田 訓久 (京都)		中田 恭弘 (福岡)	
成年女子	団体	東京	1875	早稲田雅子 637 田居麻里子 622 宮本 正子 616	山形 池田 敦美 戸川 桂子 池田 秀美	広島 平末 千秋 市木 玲子 栗森 倫代	
	個人	池田 敦美 (山形) 644(312・332)		早稲田雅子 (東京)		伊藤亜由美 (山形)	
少年男子	団体	福岡	1905	西川 清一 655 森山 俊郎 627 宮永 雅史 623	沖縄 親泊 竜也 小濱 久師 大茂 正明	神奈川 中島 嘉一 杉井 良治 橋本 祐司	
	個人	西川 清一 (福岡) 655(312・343)		親泊 竜也 (沖縄)		加賀山俊幸 (山形)	
少年女子	団体	埼玉	1850	長崎 美穂 652 石沢 純子 606 吉田しのぶ 592	京都 矢守 智美 小山 文子 西村 律子	青森 川村由紀子 下田 真弓 若松 禎子	
	個人	長崎 美穂 (埼玉) 652(316・336)		小橋川真裕美 (沖縄)		矢守 智美 (京都)	

第46回		第1位 広島県	第1位 石川県	平成3年
男女総合		第2位 石川県	女子総合	第2位 広島県
石川国体		第3位 静岡県	第3位 静岡県	石川県柳田村
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	京都 1937 上田 訓久 657 塩田 浩一 645 西井 賢一 635	広島 福島 徹 戸田 敦大 松木 裕二	新潟 高野 昭 岩坂 栄長 長 好春
	個人	西川 清一 (福岡) 659(319・340)	上田 訓久 (京都)	高野 昭 (新潟)
成年女子	団体	広島 1813 長見 みどり 610 正守 由紀 604 平末 千秋 599	石川 山首 一恵 岡野 薫 形 美和子	新潟 北原 京子 丸田 薫 小沢 昭子
	個人	北原 京子 (新潟) 640(307・333)	山首 一恵 (石川)	早稲田雅子 (東京)
少年男子	団体	滋賀 1913 松村 庫司 650 西村 拓哉 634 上野 貴裕 629	静岡 平尾 彰浩 宮崎 克巳 嶋津 裕亮	広島 藤原 悟 内藤 宏道 宮崎 庄司
	個人	松村 庫司 (滋賀) 650(309・341)	藤原 悟 (広島)	田中 勝美 (神奈川)
少年女子	団体	静岡 1750 坂本 眞琴 607 持田 牧 586 藤原 久美 557	福岡 村上 千夏 坂口 絵里 黒岩 公美	石川 西又 良美 北西 良枝 井平 勝美
	個人	小橋川真裕美 (沖縄) 620(289・331)	三ッ山香里 (京都)	坂元 眞琴 (静岡)
第47回		第1位 広島県	第1位 広島県	平成4年
男女総合		第2位 北海道	女子総合	第2位 北海道・山形県
べにばな国体		第3位 京都府	第3位	山形県鶴岡市
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	埼玉 1957 山本 博 686 松下 和幹 666 A 鈴木 正男 605	広島 戸田 敦大 A 福島 徹 松木 裕二	京都 上田 訓久 塩田 浩一 A 西井 賢一
	個人	山本 博 (埼玉) 686(335・351)	松下 和幹 (埼玉)	戸田 敦大 (広島)
成年女子	団体	山形 1824 池田 秀美 616 池田 敦美 604 本間 静恵 604	北海道 池垣 倫子 早乙女明子 米澤 昌子	広島 中川 さつき 市木 玲子 平末 千秋
	個人	池垣 倫子 (北海道) 621(293・328)	池田 秀美 (山形)	鈴木 知子 (愛知)
少年男子	団体	青森 1847 斉藤 一哉 623 山田 美喜 621 安保 秀昭 603	京都 久我 泰成 山崎 孝志 駒井 祥人	静岡 嶋津 裕亮 小杉 晃一 加藤 昌之
	個人	相蘇 義章 (北海道) 631(294・337)	嶋津 裕亮 (静岡)	松岡 洋之 (広島)
少年女子	団体	広島 1802 大内 愛 618 倉本 美幸 595 内藤 恵美 589	福岡 川上祐佳里 加藤 美紀 池田知佳子	滋賀 角田 義美 竹中麻由美 奥谷 しずか
	個人	角田 義美 (滋賀) 620(290・330)	大内 愛 (広島)	山岡 麗子 (神奈川)
第48回		第1位 広島県	第1位 兵庫県・広島県	平成5年
男女総合		第2位 北海道	女子総合	第2位
東四国国体		第3位 香川県	第3位 北海道	香川県仲南町 香川県財田町
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	埼玉 2015 山本 博 676 A 松下 和幹 673 石鉢 利明 666	北海道 相蘇 義章 清水 浩 A 茂木 健二	福岡 西川 清一 A 湯村 重人 古賀 秀一
	個人	山本 博 (埼玉) 676(331・346)	松下 和幹 (埼玉)	石鉢 利明 (埼玉)
成年女子	団体	兵庫 1802 藤田 玲子 609 谷岡 和子 603 池田裕紀子 590	広島 大内 愛 市木 玲子 平末 千秋	京都 三ッ山香里 森本 淳子 小山美代子
	個人	持田 牧 (静岡) 620(290・330)	大内 愛 (広島)	三ッ山香里 (京都)
少年男子	団体	広島 1913 増長 新吾 645 新谷 昌也 634 竹島 昌平 634	大阪 末口 広宣 木下 裕章 榊 堅 晋吾	神奈川 藤井 延欣 田代 和繁 加藤 貴之
	個人	末口 広宣 (大阪) 649(310・339)	増長 新吾 (広島)	坪根 裕樹 (福岡)
少年女子	団体	広島 1902 堂免 美香 639 片山 奈美 636 脇田 礼子 627	兵庫 洞 真希子 野元 麻里 池上真理子	北海道 斉藤 比咲 大橋 美香 上田 瞳
	個人	斉藤 比咲 (北海道) 642(306・336)	堂免 美香 (広島)	片山 奈美 (広島)

第49回		第1位 広島県	第1位 神奈川県	平成6年	
男女総合		第2位 神奈川県	女子総合	第2位 広島県	
わかしやち国体		第3位 福島県・愛知県	第3位 福岡県	愛知県岡崎市	
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	
成年男子	団体	A 山下 和幹 670 埼玉 1978 山本 博 659 石鉢 利明 649	古川 学 佐賀 西川 定 A 野口 利雄	塩田 浩一 京都 A 西井 賢一 駒井 祥人	
	個人	山下 和幹 (埼玉) 670(324・346)	山本 博 (埼玉)	古川 学 (佐賀)	
成年女子	団体	松阪 裕美 622 神奈川 1834 久保田早苗 608 大木 真理 604	川上祐佳里 福岡 谷口 和子 松枝 滋子	小林 浩子 福島 中野渡留美 稀代 貴子	
	個人	川上祐香里 (福岡) 637(294・343)	松阪 裕美 (神奈川)	大内 愛 (広島)	
少年男子	団体	村越 永人 665 福島 1933 橋本 邦彦 638 箭内 宏行 630	舟橋 裕樹 愛知 高井 武志 小山 敦史	尾上 輝樹 兵庫 真鍋 修二 美淋 康輔	
	個人	村越 永人 (福島) 665(317・348)	舟橋 裕樹 (愛知)	桜井 隼 (東京)	
少年女子	団体	河崎由加里 597 広島 1782 久保田彩子 593 仁井田明美 592	寺尾千香庫 神奈川 若松 由紀 飯島めぐみ	富島 優 兵庫 中山 志保 末田明日香	
	個人	成田美栄子 (青森) 612(285・327)	斉藤 比咲 (北海道)	田原 雅代 (愛知)	
第50回		第1位 福岡県	第1位 広島県	平成7年	
男女総合		第2位 広島県	女子総合	第2位 福島県・愛知県	
ふくしま国体		第3位 愛知県	第3位	福島県三春町	
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	
成年男子	団体	山本 博 685 埼玉 1985 石鉢 利明 654 A 山下 和幹 646	坪根 裕樹 福岡 A 湯村 重人 古賀 秀一	戸田 敦大 広島 松木 裕二 A 松本 昌昭	
	個人	山本 博 (埼玉) 685(335・350)	石鉢 利明 (埼玉)	堀川 肇充 (香川)	
成年女子	団体	小林 浩子 648 福島 1887 稀代 貴子 626 中野渡留美 613	大内 愛 広島 河崎由加里 市木 玲子	熊谷 愛 福岡 谷口 和子 森永 公子	
	個人	小林 浩子 (福島) 648(307・341)	曾根早余子 (香川)	大内 愛 (広島)	
少年男子	団体	田原 要 650 福岡 1919 松田 浩行 646 田代 裕也 623	鴨下 勝 愛知 舟橋 裕樹 山崎 誠	霜村 隆史 神奈川 三浦 佑 相馬 揚介	
	個人	鴨下 勝 (愛知) 656(312・344)	村越 永人 (福島)	田原 要 (福岡)	
少年女子	団体	植野 愛美 590 広島 1721 岩重 景 578 沖本 美詠 553	田原 雅代 愛知 岩井由香里 増井のぞみ	平山 真弓 鳥取 小林 恵美 後藤 美絵	
	個人	小出美沙都 (大分) 609(286・323)	新藤南海子 (沖縄)	田原 雅代 (愛知)	
第51回		第1位 広島県	第1位 広島県	平成8年	
男女総合		第2位 福岡県	女子総合	第2位 愛知県・佐賀県	
ひろしま国体		第3位 北海道・兵庫県	第3位	広島県呉市	
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	
成年男子	団体	山本 博 673 埼玉 1997 A 山下 和幹 667 石鉢 利明 657	A 湯村 重人 福岡 坪根 裕樹 松田 浩行	井上 勝治 兵庫 尾上 輝樹 A 橋本 博行	
	個人	末口 広宣 (大阪) 678(334・344)	上村 乃太 (奈良)	山本 博 (埼玉)	
成年女子	団体	浅野 真弓 653 佐賀 1917 児玉 絹枝 648 濱本 統子 616	平末 千秋 広島 市木 玲子 中川さつき	大木 真理 神奈川 山岡 麗子 佐藤 知香	
	個人	浅野 真弓 (佐賀) 653(315・338)	大木 真理 (神奈川)	児玉 絹枝 (佐賀)	
少年男子	団体	坂本 識史 651 広島 1907 近藤 豊将 650 北風 智章 606	橋岡 昭仁 福岡 福島 岳彦 吉光 隆敏	土井 隆嗣 兵庫 竹井 智宏 永井 大貴	
	個人	橋岡 昭二 (福岡) 664(323・341)	高木 博康 (北海道)	高松 大輔 (三重)	
少年女子	団体	大平 泉美 636 愛知 1846 田原 雅代 626 宇野 久恵 584	岡本 愛 山口 牧原 澄枝 勝谷 美紀	大湊 育美 北海道 小林 友美 保里 雅美	
	個人	大平 泉美 (愛知) 636(298・338)	岡本 愛 (山口)	平田 光代 (熊本)	

第52回		第1位 北海道		第1位 兵庫県		平成9年	
男女総合		第2位 大阪府		女子総合		第2位 北海道・佐賀県	
なみはや国体		第3位 静岡県		第3位		大阪府堺市	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	静岡県	1865	山縣朝太郎 643 菊池 功吉 614 A 古橋 照司 608	大阪 末口 広宣 湯脇 英夫 A 木下 太一	福島 上田 訓久 村越 永人 A 小野 勉	
	個人	山縣朝太郎 (静岡県) 643(310・333)		末口 広宣 (大阪)		湯脇 英夫 (大阪)	
成年女子	団体	佐賀県	1909	浅野 真弓 660 児玉 絹枝 633 中島華奈子 616	福岡 川内紗代子 川上祐佳里 谷口 和子	神奈川 大木 真理 山岡 麗子 加藤麻里子	
	個人	浅野 真弓 (佐賀) 660(322・338)		寄谷 文 (石川)		川内紗代子 (福岡)	
少年男子	団体	北海道	1758	北村 純一 593 國田 卓 584 福原 裕 581	滋賀 林 達也 伊藤 公一 増田 貴彦	大阪 中原 啓隆 島本 洋介 稲本 雅由	
	個人	加藤 桂規 (愛知) 622(292・330)		北村 純一 (北海道)		林 達也 (滋賀)	
少年女子	団体	北海道	1669	大湊 育美 594 竹本 恭子 541 小林 友美 534	兵庫 鴨志田朋子 坪内 美沙 福本 綾子	熊本 平田 光代 田口香奈子 島田亜紀子	
	個人	大湊 育美 (北海道) 594(265・329)		鴨志田朋子 (兵庫)		平田 光代 (熊本)	
第53回		第1位 神奈川県・兵庫県		第1位 兵庫県		平成10年	
男女総合		第2位		女子総合		第2位 北海道	
かながわ・ゆめ国体		第3位 広島県		第3位 神奈川県・広島県・大分県		神奈川県湯河原町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	埼玉県	1968	島村 一郎 659 山下 毅 657 戸手 隆盛 652	大阪 稲本 雅由 木下 太一 横山 武史	山口 妹尾 克己 吉富 和成 坪根 裕樹	
	個人	稲本 雅由 (大阪) 678(331・347)		村越 永人 (福島)		妹尾 克己 (山口)	
成年女子	団体	兵庫県	1893	岩崎 友加 636 永田 淑子 633 末田明日香 624	広島 河崎由加里 宮地 玲子 山田三千代	群馬 瀧野 真子 渡辺恵美子 百海 悦子	
	個人	河崎由加里 (広島) 652(312・340)		瀧野 真子 (群馬)		倉本 美幸 (徳島)	
少年男子	団体	愛知	1946	加藤 桂規 655 青山 哲也 652 松崎 正 639	広島 中濱 賢一 濱野 裕二 森本 智法	岩手 角 清一 中村 守克 植村 太也	
	個人	加藤 桂規 (愛知) 655(311・344)		中濱 賢一 (広島)		青山 哲也 (愛知)	
少年女子	団体	兵庫県	1876	田中 紗代 642 野澤 陽子 637 山路 陽子 597	大分 山本 恵美 住川 裕香 松下紗耶未	富山 米田美代子 中陳 貴保 鍵田 里絵	
	個人	中村梨沙子 (北海道) 652(313・339)		田中 紗代 (兵庫)		野澤 陽子 (兵庫)	
第54回		第1位 広島県		第1位 広島県・福岡県		平成11年	
男女総合		第2位 佐賀県		女子総合		第2位	
くまもと・未来国体		第3位 福岡県		第3位 愛知県		熊本県菊陽町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	埼玉県	238	松下 和幹 山本 博 山下 毅	佐賀 牧山 雅文 野口 利雄 松田 泰典	広島 吉田 誠志 濱野 裕二 松本 昌昭	
	個人	原口 航 (熊本) 1281(292・326・321・342)		松下 和幹 (埼玉)		山本 博 (埼玉)	
成年女子	団体	愛知	216	宇野 久恵 榊原 明美 大平 泉美	兵庫 永田 淑子 坪内 美沙 岩崎 友加	福岡 川内紗代子 宗 幸代 安部 由比	
	個人	永田 淑子 (兵庫) 1268(315・320・299・334)		川内 紗代子 (福岡)		坪内 美沙 (兵庫)	
少年男子	団体	広島	195	松本 匡司 下田 辰也 重谷圭詞郎	佐賀 井上 紀行 井原 良彦 山本 祥平	千葉 神崎 勝己 星野 大士 水原 良光	
	個人	大井 隼 (富山) 1259(285・310・324・340)		青山 哲也 (愛知)		井上 紀行 (佐賀)	
少年女子	団体	広島	213	新谷 幸子 木村 律子 福田 笑子	福岡 森田 由子 陣原 千紘 蔵原ともみ	滋賀 井上 敏美 青木 麻理 石田 弓子	
	個人	松下紗耶未 (大分) 1265(305・321・311・328)		橋戸 由梨 (岐阜)		細田 風子 (奈良)	

第55回		第1位 広島県		第1位 広島県		平成12年		
男女総合		第2位 山形県・大阪府・兵庫県・熊本県		女子総合		山形県		
2000年とやま国体		第3位		第3位 熊本県		富山県宇奈月町		
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位		
成年男子	団体	埼玉	228	松下 和幹 山本 博 脇野 智和	大阪	末口 広宣 島本 洋介 稲本 雅由	愛知	高井 武志 村井 啓毅 松崎 正
	個人	山本 博 (埼玉)	1308(286・331・341・350)	井上 喜正 (滋賀)		松下 和幹 (埼玉)		
成年女子	団体	広島	220	河崎由加里 宮地 玲子 三浦由紀子	山口	岡本 洋子 佐野 英子 勝谷 美紀	山形	奥山 美樹 五十嵐愛加 榎本 静香
	個人	浅野 真弓 (佐賀)	1306(315・322・312・347)	川内紗代子 (福岡)		河崎由加里 (広島)		
少年男子	団体	兵庫	232	岡田 和典 北山 大輔 藤井 康史	佐賀	打越 大輔 岩崎 圭介 千住 幸輝	大阪	今井 裕之 荒川 勇輔 岡本 春一
	個人	林 和弘 (群馬)	1237(281・311・308・337)	宇佐美剛史 (愛知)		中山 由一 (熊本)		
少年女子	団体	熊本	206	松田有紀美 橋本 晃子 濱口いづみ	山形	渡部 千里 庄司恵美子 齋藤 明美	広島	新谷 幸子 福田 笑子 木村 律子
	個人	浦田由佳子 (富山)	1247(301・318・295・333)	橋本 晃子 (熊本)		吉富 舞香 (大分)		
第56回		第1位 兵庫県		第1位 兵庫県		平成13年		
男女総合		第2位 愛知県		女子総合		山形県		
新世紀・みやぎ国体		第3位 富山県・滋賀県		第3位 愛知県		宮城県東和町		
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位		
成年男子	団体	埼玉	239	松下 和幹 山本 博 脇野 智和	広島	濱野 裕二 戸田 敦大 吉田 誠志	愛知	高井 武志 青山 哲也 松崎 正
	個人	山本 博 (埼玉)	1307(295・325・332・355)	濱野 裕二 (広島)		塩田 浩一 (京都)		
成年女子	団体	兵庫	218	坪内 美沙 永田 淑子 野澤 陽子	滋賀	井上 敏美 高山 康代 高瀬 真希	山形	奥山 美樹 五十嵐愛加 榎本 静香
	個人	浅野 真弓 (佐賀)	1306(313・334・318・341)	坪内 美沙 (兵庫)		河崎由加里 (広島)		
少年男子	団体	富山	236	前本 卓 佐藤 彰一 清水 洋兵	佐賀	本山 隆道 松本 康太 渡邊 健太	滋賀	上村 展弘 長村 邦彦 藤田 真和
	個人	赤坂 清 (宮城)	1258(281・317・319・341)	長村 邦彦 (滋賀)		伊賀 崇人 (香川)		
少年女子	団体	兵庫	239	瀬川ゆかり 林 勇気 末陰 章奈	宮城	及川 亜由 大山 幸恵 山田 舞	愛知	長田 直美 大原 彩 柴田 愛美
	個人	瀬川ゆかり (兵庫)	1279(302・320・309・348)	長田 直美 (愛知)		吉丸まき子 (佐賀)		
第57回		第1位 佐賀県		第1位 滋賀県		平成14年		
男女総合		第2位 滋賀県		女子総合		佐賀県		
よさこい・高知国体		第3位 埼玉県・静岡県		第3位 京都府		高知県梼原町		
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位		
成年男子	団体	埼玉	241	松下 和幹 山本 博 重谷圭詞郎	岡山	加藤 秀人 湯脇 英夫 木村 明弘	東京	田中 敬一 木村 正純 沼崎美紀夫
	個人	山本 博 (埼玉)	1219(247・314・310・348)	中平 伸一 (大阪)		門倉 真人 (神奈川)		
成年女子	団体	京都	229	福島 美幸 塩田 佳苗 上野百百子	滋賀	西川千加子 堀井 智美 井上 敏美	群馬	渡辺恵美子 新井えりか 百海 悦子
	個人	榎本 静香 (山形)	1242(286・316・301・339)	浅野 真弓 (佐賀)		福島 美幸 (京都)		
少年男子	団体	静岡	232	柴田 裕之 松井 寛和 永田 雅也	広島	菊地 栄樹 中村 仁 瀬尾 聡裕	佐賀	松本 康太 石丸 友秋 山田 健作
	個人	古川 高晴 (青森)	1154(221・302・294・337)	島村 健一 (埼玉)		赤坂 清 (宮城)		
少年女子	団体	滋賀	230	梶原 百恵 大橋 裕子 山田 好美	兵庫	瀬川ゆかり 坂田安紀子 林 勇気	青森	大浦真紀子 前田 実季 高森 良子
	個人	瀬川ゆかり (兵庫)	1217(292・301・295・329)	猪股 香菜 (宮城)		馬場可那子 (佐賀)		

第58回		第1位 大分県	第1位 大分県	平成15年	
男女総合		第2位 静岡県・大阪府・広島県	女子総合	第2位 富山県	
NEW!!わかふじ国体		第3位	第3位 兵庫県	静岡県榛原町	
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	
成年男子	団体	大阪 207	守屋 龍一 西川 清一 浦名 直樹	東京	木村 正純 田中 敬一 沼崎美紀夫
	個人	山本 博 (埼玉)	1310(315・322・317・356)	脇野 智和 (埼玉)	守屋 龍一 (大阪)
成年女子	団体	兵庫 162	川内紗代子 林 勇気 瀬川 ゆかり	広島	森田 由美 河崎由加里 新谷 幸子
	個人	松下紗耶未 (大分)	1307(323・327・312・345)	川内紗代子 (兵庫)	林 勇気 (兵庫)
少年男子	団体	広島 171	中村 仁 菊地 栄樹 栗栖 正臣	大阪	小橋口圭彦 加守 弘明 橋本 和紀
	個人	中村 仁 (広島)	1281(295・315・327・344)	菊地 栄樹 (広島)	天野 良太 (大分)
少年女子	団体	大分 173	岡部 恵奈 柴尾佳なえ 森本 舞	京都	豊山 絵菜 谷口枝璃子 岡崎 路恵
	個人	岡部 恵奈 (大分)	1259(299・325・296・339)	三上 希望 (青森)	伊勢村祐紀 南 知里 小川 紗輝
第59回		第1位 北海道・神奈川県	第1位 北海道・佐賀県・長崎県	平成16年	
男女総合		第2位	女子総合	第2位	
彩の国まごころ国体		第3位 埼玉県・富山県・広島県	第3位	埼玉県宮代町	
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	
成年男子	団体	熊本 233	坂本 隆輝 植田 浩太 中山 由一	長野	丸山 貴之 小池 栄太 井原 一徹
	個人	山本 博 (埼玉)	1314(309・332・322・351)	脇野 智和 (埼玉)	田中 敬一 (東京)
成年女子	団体	佐賀 232	浅野 真弓 馬場可那子 吉丸まき子	山形	榎本 静香 三浦 美樹 渡部 千里
	個人	浅野 真弓 (佐賀)	1310(313・333・319・345)	榎本 静香 (山形)	木内絵美子 山崎 麻衣 山根 麻貴
少年男子	団体	奈良 221	福田 圭宏 上田 博紀 恒岡 新力	北海道	石山 純平 中田 修平 古川 大
	個人	福田 圭宏 (奈良)	1262(288・311・319・344)	築地 和也 (福岡)	松本 彰平 北木 秀司 出本 敬明
少年女子	団体	北海道 201	西川 祐未 安田 聡美 中山 美希	大分	後藤 緑 麻生 佳子 坂井 綾乃
	個人	新井 麻美 (埼玉)	1260(300・324・298・338)	西川 祐未 (北海道)	琴浦 深雪 大津紗綾香 谷口 雅子
第60回		第1位 京都府	第1位 京都府	平成17年	
男女総合		第2位 広島県・香川県	女子総合	第2位 富山県	
晴れの国おかやま国体		第3位	第3位 兵庫県	岡山県日生町	
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	
成年男子	団体	広島 233	菊地 栄樹 松本 彰平 中村 仁	静岡	松井 寛和 古橋 照司 山縣朝太郎
	個人	那須 皇嗣 (和歌山)	632(311・321)	菊地 栄樹 (広島)	伊賀 嵩人 廣瀬 基 本多 道雄
成年女子	団体	兵庫 220	北畠紗代子 林 勇気 瀬川 ゆかり	京都	上野百百子 山田 恵 坂井 茉帆
	個人	浅野 真弓 (佐賀)	622(319・303)	柚木 千春 (富山)	柚木 千春 寺田 春菜 広野 麻衣
少年男子	団体	長野 230	山崎 由晃 齊藤 一平 宮下 朋幸	京都	金村 賢 塩見 秀馬 木下 翔平
	個人	金村 賢 (京都)	628(312・316)	松木 俊道 (宮城)	仲肥由里子 (岡山)
少年女子	団体	京都 221	藤田 梓 藤井千紗子 岡 育美	和歌山	前山明日香 三垣日登美 濱田 紘代
	個人	前山明日香 (和歌山)	583(300・283)	松浦由加子 (富山)	松木 俊道 工藤 靖也 伊藤 和也

第61回		第1位 広島県 第2位 神奈川県 第3位 佐賀県	男子総合	第1位 広島県 第2位 佐賀県 第3位 群馬県	女子総合	平成18年
のじぎく兵庫国体						兵庫県加東市
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位
成年男子	団体	神奈川 196	門倉 真人 橋本 千秋 田畑 隼剛	長野	丸山 貴之 宮原 雅 宮下 朋幸	兵庫 末口 広宣 藤井 康史 山本 諒
	個人	天野 良太 (大分)	619(307・312)	末口 広宣 (兵庫)		脇野 智和 (埼玉)
成年女子	団体	静岡 183	鈴木久美子 近藤 真弓 村田 有香	広島	河崎由加里 三木 典子 森田 由美	神奈川 松坂 裕美 早川 浪 大塚 妙子
	個人	南 知里 (滋賀)	633(320・313)	早川 浪 (神奈川)		浅野 真弓 (佐賀)
少年男子	団体	広島 210	小林 史弥 松本 皓太 炭本 拓郎	青森	山本 陽一 笹森 将来 山田 祐嗣	愛知 坂野 太一 大島 淳 土岐 秀幸
	個人	岩本 雅英 (埼玉)	590	西村 義貴 (長崎)		坂野 太一 (愛知)
少年女子	団体	群馬 185	松本 千晶 林 享美 小林 絵美	広島	圖師未希絵 矢田具静江 小西 由華	愛知 青山絵美子 新海 彩 蟹江 美貴
	個人	坂本いつか (香川)	579(281・298)	圖師未希絵 (広島)		渡邊なつき (大阪)
第62回		第1位 佐賀県 第2位 愛知県 第3位 兵庫県	男女総合	第1位 静岡県・佐賀県 第2位 第3位 滋賀県・大阪府	女子総合	平成19年
秋田わか杉国体						秋田県北秋田市
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位
成年男子	団体	兵庫 212	末口 広宣 藤井 康史 山本 諒	大分	天野 良太 大野 佑貴 石津 優	大阪 古川 高晴 土井 友幹 守屋 龍一
	個人	古川 高晴 (大阪)	671(337・334)	宮原 雅 (長野)		田畑 隼剛 (神奈川)
成年女子	団体	静岡 203	近藤 真弓 鈴木久美子 長岡 光江	滋賀	伊勢村祐紀 南 知里 井上 敏実	和歌山 濱田 紘代 三垣日登美 前山明日香
	個人	北畠紗代子 (兵庫)	639(323・316)	前山明日香 (和歌山)		浅野 真弓 (佐賀)
少年男子	団体	佐賀 200	美野田晃大 吉永 弘幸 岩田 健祐	愛知	土岐 秀幸 大島 淳 坂野 太一	東京 牧野 吉朗 佐藤 博乙 奥野 晃太
	個人	坂野 太一 (愛知)	648(325・323)	大島 淳 (愛知)		牧野 吉朗 (東京)
少年女子	団体	佐賀 198	東川映巳厘 小部恵理子 辛川 英里	大阪	上山 咲 岡本 章子 大嶋 恵	新潟 佐野 雅恵 山口 美紅 佐野 萌美
	個人	圖師未希絵 (広島)	644(324・320)	佐野 雅恵 (新潟)		大長 愛実 (静岡)
第63回		第1位 広島県 第2位 佐賀県 第3位 神奈川県	男女総合	第1位 和歌山県 第2位 静岡県・兵庫県 第3位	女子総合	平成20年
チャレンジ！おおいた国体						大分県由布市
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位
成年男子	団体	佐賀 218	吉永 弘幸 美野田晃大 岩田 健祐	広島	戸田 敦大 菊地 栄樹 小林 史弥	愛知 坂野 太一 土岐 秀幸 大島 淳
	個人	古川 高晴 (大阪)	676(340・336)	菊地 栄樹 (広島)		田畑 隼剛 (神奈川)
成年女子	団体	静岡 206	近藤 真弓 鈴木久美子 長岡 光江	神奈川	早川 浪 伊藤 浩子 高沢 梨恵	和歌山 前山明日香 三垣日登美 谷口 雅子
	個人	早川 浪 (神奈川)	663(331・332)	長岡 光江 (静岡)		林 勇気 (京都)
少年男子	団体	佐賀 204	末武 寛基 溝口 和輝 前野 修吾	長崎	渡邊 祐樹 静里 祥平 楠本 記也	静岡 内田 陽 小笠原琢磨 望月 洸太
	個人	内田 陽 (静岡)	658(332・326)	前野 修吾 (佐賀)		佐藤 雅彦 (大分)
少年女子	団体	兵庫 194	松永安紗子 足立 奈穂 池内 麻実	広島	圖師未希絵 加藤 彩 泉 陽香	和歌山 吉原 智恵 鈴木 葵 井上 万稚
	個人	吉原 智恵 (和歌山)	628(315・313)	圖師未希絵 (広島)		松永安紗子 (兵庫)

第64回		男女総合		第1位 大分県	女子総合		第1位 大分県	平成21年
トキめき新潟国体		第2位 北海道			第2位 北海道・兵庫県			
		第3位 神奈川県・静岡県			第3位	新潟県燕市		
種別	区分	第 1 位			第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	大阪	214	古川 高晴 松下 太生 守屋 龍一	神奈川	池田 匡幸 田畑 隼剛 橋本 千秋	佐賀	美野田晃大 吉永 弘幸 末武 寛基
	個人	菊地 栄樹 (広島)	651(327・324)		田畑 隼剛 (神奈川)		古川 高晴 (大阪)	
成年女子	団体	兵庫	197	早川 浪 足立 奈穂 松永安紗子	大分	安部 貴恵 管 真依子 松下紗耶未	静岡	近藤 真弓 齊藤 彩香 長岡 光江
	個人	長岡 光江 (静岡)	630(319・311)		前山明日香 (和歌山)		寺井 真美 (熊本)	
少年男子	団体	広島	196	大田 昌平 村田 勇樹 小岩 創司	北海道	岸塚 祥矢 蓬田 昌伸 吉田 幸平	宮城	駒板 佳樹 佐々木那王 山田 卓
	個人	小笠原琢磨 (静岡)	620(311・309)		岸塚 祥矢 (北海道)		佐藤 克紀 (神奈川)	
少年女子	団体	北海道	206	田中明日香 鈴木 彩夏 家後 美里	長崎	大久保 舞 川 渕 真弓 樋口 栞菜	大分	森岡 明菜 日向瀬 碧 加藤 綾乃
	個人	川中香緒里 (鳥取)	633(319・314)		加藤 綾乃 (大分)		田中明日香 (北海道)	
第65回		男女総合		第1位 大分県	女子総合		第1位 大分県	平成22年
ゆめ半島千葉国体		第2位 広島県			第2位 神奈川県			
		第3位 静岡県			第3位 青森県・愛知県	千葉県船橋市		
種別	区分	第 1 位			第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	広島	221	菊地 栄樹 大田 昌平 小林 史弥	大分	天野 良太 金子 令 佐藤 雅彦	北海道	松原 孝臣 本間 隼人 蓬田 昌伸
	個人	土岐 秀幸 (愛知)	652(327・325)		佐藤 博乙 (東京)		西村 義貴 (長崎)	
成年女子	団体	愛知	214	新海 彩 平 美香 蟹江 美貴	大分	緒方 里美 小出美沙都 松下紗耶未	和歌山	前山明日香 張間 舞妃 鈴木 葵
	個人	早川 漣 (神奈川)	644(321・323)		長岡 光江 (岐阜)		前山明日香 (和歌山)	
少年男子	団体	大分	213	草野 雅人 阿部 慧史 吉田 真也	滋賀	今井 雅樹 尾崎 寛人 伊吹 友寿	岡山	江口 直樹 竹田 太郎 平山 晃基
	個人	鬼山 直也 (山梨)	638(312・326)		江口 直樹 (岡山)		平山 晃基 (岡山)	
少年女子	団体	青森	205	斎藤 春菜 柏崎 寛奈 浅利 萌衣	大分	加藤 綾乃 佐藤真奈美 日向瀬 碧	静岡	杉林 りな 大石麻紀子 河合 希美
	個人	佐藤真奈美 (大分)	616(313・303)		加藤 綾乃 (大分)		斎藤 春菜 (青森)	
第66回		男女総合		第1位 東京都・広島県	女子総合		第1位 青森県・山梨県・大阪府	平成23年
おいでませ山口国体		第2位			第2位			
		第3位 滋賀県			第3位	山口県周防大島町		
種別	区分	第 1 位			第 2 位		第 3 位	
成年男子	団体	広島	212	大田 昌平 小岩 創司 戸田 敦大	東京	本間 薫 佐藤 博乙 木村 正純	北海道	本間 隼人 佐々木和真 松原 孝臣
	個人	山本 悠太 (兵庫)	663(334・329)		土岐 秀幸 (愛知)		田畑 隼剛 (神奈川)	
成年女子	団体	大阪	209	大嶋 恵 遊佐 萌藍 西村 紗芳	兵庫	足立 奈穂 松永安紗子 北畠紗代子	大分	立川 枝里 佐藤真奈美 加藤 綾乃
	個人	平 美香 (愛知)	627(308・319)		前山明日香 (静岡)		林 勇気 (京都府)	
少年男子	団体	滋賀	208	南橋 勇輝 今井 雅樹 丸居昇太郎	東京	高野 晃 上妻 敬知 遠藤 優	広島	中村 翔 末田 翔司 山本 和樹
	個人	中村 翔 (広島)	651(326・325)		今井 雅樹 (滋賀)		阿部 慧史 (大分)	
少年女子	団体	山梨	204	鬼山 美佳 永田 有紗 菊池 百花	京都	木村 真有 伊藤佐保梨 森本麻友美	神奈川	長網 美樹 及川 未稀 臼井 美記
	個人	杉林 りな (静岡)	619(314・305)		鬼山 美佳 (山梨)		原野 華子 (福岡)	

第67回		第1位 広島県	第1位 岐阜県	平成24年
男女総合		第2位 和歌山県	女子総合 第2位 長崎県	
ぎふ清流国体		第3位 大分県	第3位 広島県	岐阜県高山市
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	埼玉 215 松井 孝夫 喜多田治彦 清水 雅英	広島 菊地 栄樹 大田 昌平 小林 史弥	東京 山本 博 佐藤 博乙 小林 慧
	個人	田畑 隼剛 (神奈川) 672(334・338)	山本 博 (東京)	松井 孝夫 (埼玉)
成年女子	団体	大分 216 松下紗耶未 加藤 綾乃 佐藤真奈美	長崎 早川 漣 大久保 舞 永峰 沙織	岐阜 長岡 光江 西村 紗芳 奥山 麻子
	個人	早川 漣 (長崎) 649(322・327)	椎谷 直美 (神奈川)	川中香緒里 (鳥取)
少年男子	団体	和歌山 211 津田 勇志 栗田 清貴 山田 啓睦	青森 三浦 雄樹 舘山 大基 千葉 恭平	大阪 住友 雅治 岡田 拓己 杉尾 知輝
	個人	河田 悠希 (広島) 655(330・325)	津田 勇志 (和歌山)	水野 彰洋 (愛知)
少年女子	団体	静岡 189 杉本 智美 鳥居 佳世 伊藤真由美	滋賀 吉田 淳子 服部 由莉 西野 汐梨	広島 坪田 沙織 松本 彩音 樽本 香奈
	個人	西野 汐梨 (滋賀) 618(305・313)	杉本 智美 (静岡)	松本 彩音 (広島)
第68回		第1位 広島県	第1位 広島県	平成25年
男女総合		第2位 愛知県・和歌山県	女子総合 第2位 愛知県	
スポーツ祭東京		第3位	第3位 青森県・山梨県	東京都三鷹市
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	福岡 210 白附 亮 今井 拓麻 前田 悠帆	大分 天野 良太 大野 佑貴 金子 令	滋賀 尾崎 寛人 今井 雅樹 杉本 翔太
	個人	菊地 栄樹 (広島) 662(330・332)	山内 敬介 (神奈川)	石津 優 (広島)
成年女子	団体	愛知 204 新海 彩 平 美香 蟹江 美貴	広島 石田明日香 松本 彩音 圖師未希絵	長崎 早川 漣 川渕 真弓 久原 千夏
	個人	早川 漣 (長崎) 651(322・329)	杉林 りな (静岡)	蟹江 美貴 (愛知)
少年男子	団体	和歌山 213 山田 啓睦 坂本 一磨 倉矢 知明	広島 河田 悠希 岡本 靖寛 狩山 勇輝	愛知 不破 俊典 近藤 直哉 武藤 弘樹
	個人	杉尾 知輝 (大阪) 650(324・326)	河田 悠希 (広島)	鬼山 直也 (山梨)
少年女子	団体	広島 208 小城 碧 山本紗矢香 吉山 唯	山梨 小野 綾香 菊池 百花 清水 遥	和歌山 古田 悠 殿田 留巳 平川 仁巳
	個人	古田 悠 (和歌山) 619(309・310)	小城 碧 (広島)	宮木芙美代 (青森)
第69回		第1位 長崎県	第1位 長崎県	平成26年
男女総合		第2位 滋賀県	女子総合 第2位 青森県・山梨県・京都府	
長崎がんばらば国体		第3位 静岡県・広島県	第3位	長崎県佐世保市
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	神奈川 大井 一輝 田畑 隼剛 大貫 渉	滋賀 尾崎 寛人 今井 雅樹 杉本 翔汰	大分 金子 令 大野 佑貴 天野 良太
	個人	菊地 栄樹 (広島) 647(317・330)	鬼山 直也 (山梨)	尾崎 寛人 (滋賀)
成年女子	団体	長崎 早川 漣 川渕 真弓 永峰 沙織	静岡 杉本 智美 杉林 りな 長岡 光江	京都 林 勇気 足立 奈穂 長村 恵里
	個人	川中香緒里 (鳥取) 667(329・338)	早川 漣 (長崎)	林 勇気 (京都)
少年男子	団体	広島 河田 悠希 泉 雄也 奥 勇登	滋賀 山本 雅也 宇野 優人 和田 聖矢	静岡 小笠原奨悟 村井孝太郎 小川 哲生
	個人	河田 悠希 (広島) 643(319・324)	古賀 翔汰 (佐賀)	倉矢 知明 (和歌山)
少年女子	団体	山梨 村木 友里 小野 綾香 清水 遥	長崎 濱田なつき 瀬川 聖奈 福島 央子	青森 宮木芙美代 檜館 紗希 松浦 実輝
	個人	小林 加奈 (福岡) 611(291・320)	濱田なつき (長崎)	若藤綺英羅 (愛媛)

第70回		第1位 滋 賀 県	第1位 滋 賀 県 ・ 長 崎 県	平成27年	
男女総合		第2位 広 島 県	女子総合	第2位	
紀の国わかやま国体		第3位 和歌山県・青森県・長崎県	第3位 京 都 府	和歌山県日高川町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	滋 賀	尾崎 寛人 山本 雅也 杉本 翔太	和歌山 古川 高晴 土井 友幹 津田 勇志	広 島 菊地 栄樹 岩 田 歩 大田 昌平
	個人	古川 高晴 (和歌山)	662(329・333)	尾崎 寛人 (滋 賀)	山本 雅也 (滋 賀)
成年女子	団体	静 岡	長岡 光江 杉林 りな 杉本 智美	群 馬 深澤 菜見 小川 千絵 遠間あずさ	京 都 林 勇 気 足立 奈穂 田中 仁菜
	個人	川中香緒里 (鳥 取)	663(334・329)	古田 悠 (和歌山)	杉本 智美 (静 岡)
少年男子	団体	広 島	河田 悠希 泉 雄 也 奥 勇 登	福 岡 永友 隼斗 塚本 和広 古賀 大輝	千 葉 齋 藤 宰 高野橋良篤 大吉 悠介
	個人	河田 悠希 (広 島)	667(337・330)	泉 雄也 (広 島)	溝脇 史也 (長 崎)
少年女子	団体	滋 賀	松川 智子 田中 千尋 井上 綾乃	長 崎 瀬川 聖奈 岸川 榛菜 相川 一葉	愛 媛 奥村 佳子 矢野 朝香 若藤綺英羅
	個人	奥村 佳子 (愛 媛)	607(304・303)	瀬川 聖奈 (長 崎)	中野 遥 (千 葉)
第71回		第1位 滋 賀 県	第1位 静 岡 県	平成28年	
男女総合		第2位 静 岡 県	女子総合	第2位 愛 媛 県	
希望郷いわて国体		第3位 長 崎 県	第3位 東 京 都	岩手県雫石町	
種別	区分	第 1 位		第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	神奈川	田畑 隼剛 大井 一輝 大貫 渉	滋 賀 尾崎 寛人 山本 雅也 杉本 翔太	広 島 菊地 栄樹 岩 田 歩 河田 悠希
	個人	池田 亮 (東 京)	650(329・321)	菊地 栄樹 (広 島)	岩田 歩 (広 島)
成年女子	団体	長 崎	永峰 沙織 早川 漣 久原 千夏	静 岡 杉本 智美 竹川 佳甫 鳥居 佳世	滋 賀 服部 由莉 前野 愛 西野 汐梨
	個人	永峰 沙織 (長 崎)	643(324・319)	早川 漣 (長 崎)	加藤 綾乃 (大 分)
少年男子	団体	広 島	光永 嶺 堀 大樹 木村 翔大	長 崎 青島 鉄也 酒井 孝大 中島 由陽	静 岡 加藤 大宙 鈴木 怜欧 辻 昇平
	個人	青島 鉄也 (長 崎)	645(327・318)	戸松 大輔 (愛 知)	光永 嶺 (広 島)
少年女子	団体	東 京	木村 美保 古川由紀乃 鈴木 日和	愛 媛 小原 佳子 清水 栞奈 阿部奈都美	兵 庫 上原 瑠果 室屋 郁乃 徳田 梨彩
	個人	大橋 朋花 (岐 阜)	608(300・308)	中村 美優 (北海道)	小原 佳子 (愛 媛)
第72回		第1位 東 京 都	第1位 山形県・静岡県・福岡県	平成29年	
男女総合		第2位 山 形 県	女子総合	第2位	
愛顔つなぐえひめ国体		第3位 愛 知 県	第3位	愛媛県今治市	
種別	区分	第 1 位		第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	神奈川	大貫 渉 大井 一輝 田畑 隼剛	愛 知 野村 翼 近藤 直哉 不破 俊典	東 京 佐藤 博乙 窪田 晟也 池田 亮
	個人	河田 悠希 (広 島)	675(332・343)	大貫 渉 (神奈川)	大井 一輝 (神奈川)
成年女子	団体	岩 手	川渕 真弓 吉田 美紅 畠山佳菜子	愛 知 平 美 香 堀口 理沙 柴田 朋佳	山 形 舩見 真奈 富樫 郁奈 中村 美樹
	個人	川中 香緒里 (鳥 取)	643(321・322)	久原 千夏 (福 井)	入江 優 (岡 山)
少年男子	団体	兵 庫	中川 光造 岩佐 永寿 岡崎 恭輔	佐 賀 畑瀬 隆嗣 井上 陸離 丸山 瑛平	山 形 石川 竜也 照井 翔太 佐藤 久伸
	個人	石川 竜也 (山 形)	647(321・326)	山本 陽生 (千 葉)	石井 佑哉 (東 京)
少年女子	団体	東 京	古川由紀乃 松山菜々花 矢島 萌音	福 岡 小田 楓恋 矢原 七海 野田 紗月	静 岡 渡邊 麻央 中村 美兎 高橋 莉歩
	個人	渡邊 麻央 (静 岡)	615(304・311)	井上 鈴夏 (大 阪)	高見 愛佳 (長 崎)

第73回				第1位 大 阪 府	第1位 埼 玉 県・大 阪 府	平成30年
男女総合				第2位 福 井 県	女子総合 第2位	
福井しあわせ元気国体				第3位 岩手県・埼玉県・広島県・熊本県	第3位 岩手県・山形県・静岡県・岐阜県	福井県福井市
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位
成年男子	団体	大 阪	鬼山 直也 古川 高晴 門 澤 稜	愛 知	武藤 弘樹 近藤 直哉 野 村 翼	神奈川 大井 一輝 大 貫 渉 田畑 隼剛
	個人	鬼山 直也 (大 阪)	665(332・333)	古川 高晴 (大 阪)	武藤 弘樹 (愛 知)	
成年女子	団体	埼 玉	大澤妃奈乃 木下あすか 中西菜津子	岐 阜	西村 紗芳 大橋 朋花 杉 村 りな	福 井 小 城 碧 久原 千夏 服部 由莉
	個人	西村 紗芳 (岐 阜)	631(310・321)	大橋 朋花 (岐 阜)	富樫 郁奈 (山 形)	
少年男子	団体	広 島	伊藤 魁晟 西川 柊也 土居野 樹	千 葉	根本 鷹嗣 溝口 裕也 松村 知哉	坂本 隆道 井上 陸離 宮崎 勇斗
	個人	戸松 大輔 (愛 知)	656(320・336)	伊藤 魁晟 (広 島)	戸田 悠登 (熊 本)	
少年女子	団体	大 阪	松下 千華 居樹佳奈江 上田 愛奈	静 岡	渡邊 麻央 疋田 芽唯 村木 淑乃	坪倉 麻衣 山本 志織 高島 美純
	個人	小野寺 みずき (岩 手)	611(298・313)	渡邊 麻央 (静 岡)	園田 稚 (大 分)	
第74回				第1位 大 阪 府	第1位 大 阪 府	令和元年
男女総合				第2位 広 島 県・山 口 県	女子総合 第2位 岩 手 県・愛 媛 県	
いきいき茨城ゆめ国体				第3位	第3位	茨城県つくば市
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位
成年男子	団体	大 阪	古川 高晴 鬼山 直也 小野純一朗	神奈川	大井 一輝 大 貫 渉 田畑 隼剛	戸松 大輔 武藤 弘樹 野 村 翼
	個人	古川 高晴 (大 阪)	660(326・334)	菊地 栄樹 (広 島)	河田 悠希 (広 島)	
成年女子	団体	岩 手	川 渕 真 弓 小野寺まどか 岩 渕 萌	大 阪	杉本 智美 加藤 綾乃 川中香緒里	入 江 優 居樹佳奈江 青木菜保子
	個人	堀口 理沙 (広 島)	637(320・317)	杉林 りな (岐 阜)	杉本 智美 (大 阪)	
少年男子	団体	広 島	伊藤 魁晟 松川 智哉 市 林 祥磨	三 重	田木 亮成 佐藤 優成 普久原恵治	藤 井 望 平 林 真知 松 見 翔太
	個人	宮成 孝輔 (大 分)	627(313・314)	伊藤 魁晟 (広 島)	松川 智哉 (広 島)	
少年女子	団体	愛 媛	舟見 舞姫 小原 佳子 勝本 由奈	山 口	末長 愛美 藤田 寿里 小畑 響子	高見 愛佳 朝永絵梨佳 高見 朋夏
	個人	山中乃絵留 (岐 阜)	618(310・308)	舟見 舞姫 (愛 媛)	高見 愛佳 (長 崎)	
第75回				令和2年		
燃ゆる感動かごしま国体				中 止		
				鹿児島県鹿児島市		
第76回				令和3年		
三重とこわか国体				中 止		
				三重県松阪市		
第77回				第1位 大 阪 府・大 分 県	第1位 大 分 県	令和4年
男女総合				第2位	女子総合 第2位 静 岡 県	
いちご一会とちぎ国体				第3位 東 京 都	第3位 山 形 県・大 阪 府	栃木県那須烏山市
種別	区分	第 1 位		第 2 位		第 3 位
成年男子	団体	愛 知	戸松 大輔 武藤 弘樹 舟橋 悠矢	群 馬	市川 遼治 大塚 謙史 森田 伊心	東 京 平 林 真知 山 本 博 小 林 司
	個人	桑江 良斗 (山 口)	667(329・338)	古川 高晴 (大 阪)	山本 博 (東 京)	
成年女子	団体	静 岡	杉本 智美 山 内 梓 渡邊 麻央	山 形	岸塚 美樹 阿部 詩野 星野 爽来	大 分 加藤 綾乃 園 田 稚 末 松 愛梨
	個人	中村 美優 (北海道)	661(336・325)	岸塚 美樹 (山 形)	園田 稚 (大 分)	
少年男子	団体	三 重	柴田 貫嗣 畠中 康有 横山 佳史	岐 阜	斉藤 史弥 野田慶一郎 松岡 天丸	杉山 獅暁 白井 航惺 加守田亮太
	個人	斉藤 史弥 (岐 阜)	669(336・333)	白井 航惺 (大 阪)	柴田 貫嗣 (三 重)	
少年女子	団体	大 分	澤田こころ 石井 美羽 渡邊 芽吹	大 阪	三輪 紗愛 和 田 蒼 角 絵 里 花	原田 愛実 勝 見 麗 塩 見 茉 央
	個人	大田 楓子 (鹿児島)	626(309・317)	吉田 光里 (岩 手)	石井 美羽 (大 分)	

特別		第1位 広島県	第1位 大分県	令和5年
男女総合		第2位 愛知県	女子総合 第2位 広島県・福岡県	
燃ゆる感動かごしま国体		第3位 大分県	第3位	鹿児島県鹿児島市
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	愛知 戸松大輔 武藤弘樹 舟橋悠矢	広島 河田悠希 伊藤魁晟 住谷和輝	神奈川 奥村礼矢 大貫渉 瀬川楼介
	個人	河田 悠希 (広島) 682(338・344)	青島 鉄也 (長崎)	武藤 弘樹 (愛知)
成年女子	団体	広島 堀口理沙 檜本邑里 森帆乃花	大分 園田 稚 加藤綾乃 朝久野奈波	京都 安久詩乃 林 勇 気 上野百百子
	個人	園田 稚 (大分) 664(333・331)	杉本 智美 (静岡)	安久 詩乃 (京都)
少年男子	団体	福岡 吉村知弥 井 上 岳 高田顕照	愛知 大 木 倭 山本雄大 堀尾慶太	大阪 白井航惺 高井志道 富吉優心
	個人	白井 航惺 (大阪) 657(331・326)	阪尾 尚優汰 (岐阜)	松岡 天丸 (岐阜)
少年女子	団体	大分 澤田こころ 石井美羽 渡邊芽吹	大阪 和 田 蒼 泉 華 蓮 今井希海	山口 河村笑莉 小川歩海 小泉千咲
	個人	今井 希海 (大阪) 649(328・321)	和田 蒼 (大阪)	五関 暁子 (東京)
第78回		第1位 滋賀県	第1位 滋賀県	令和6年
男女総合		第2位 大阪府・大分県	女子総合 第2位 大分県	
SAGA2024国スポ		第3位	第3位 静岡県	佐賀県鹿島市
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	愛知 戸松大輔 武藤弘樹 舟橋悠矢	広島 河田悠希 青島鉄也 伊藤魁晟	岐阜 斉藤史弥 澤田つくし 阪尾尚優汰
	個人	斉藤 史弥 (岐阜) 675(336・339)	舟橋 悠矢 (愛知)	河田 悠希 (広島)
成年女子	団体	静岡 杉本智美 山内梓 渡邊茉央	滋賀 原田愛実 勝見麗 塩見茉央	大分 園田 稚 朝久野奈波 渡邊芽吹
	個人	朝久野 奈波 (大分) 663(328・335)	園田 稚 (大分)	野田 紗月 (福岡)
少年男子	団体	神奈川 武内俊秀 浦田唯 渡邊光希	富山 道添光輝 橘鼓太朗 白川 仁	千葉 関口滉都 チャンプレndan 倉田遼平
	個人	浦田 唯 (神奈川) 653(326・327)	高井 志道 (大阪)	茶畑 颯士 (兵庫)
少年女子	団体	滋賀 吉田結希乃 長谷川綾音 佐々木心音	大分 石井美羽 小野翔音 澤田こころ	大阪 今井希海 胡田心菜 徳山晃以
	個人	今井 希海 (大阪) 649(326・323)	黒田 彩夏 (愛媛)	佐々木 心音 (滋賀)
第79回		第1位 滋賀県	第1位 大分県	令和7年
男女総合		第2位 富山県	女子総合 第2位 福岡県	
わたSHIGA輝く国スポ		第3位 大分県	第3位 滋賀県	滋賀県愛荘町
種別	区分	第 1 位	第 2 位	第 3 位
成年男子	団体	広島 青島鉄也 河田悠希 伊藤魁晟	埼玉 桑江良斗 藤井 望 加藤永遠	富山 澤田桃太 橘鼓太朗 徳本 拓人
	個人	青島 鉄也 (広島) 688(342・346)	桑江 良斗 (埼玉)	武藤 弘樹 (愛知)
成年女子	団体	静岡 杉本智美 山内梓 渡邊麻央	大分 朝久野奈波 園田 稚 末松愛梨	大阪 山田梨乃 山中夢叶 西村 遼
	個人	園田 稚 (大分) 668(329・339)	杉本 智美 (静岡)	朝久野 奈波 (大分)
少年男子	団体	千葉 倉田遼平 立原慶汰 鈴木陽向	滋賀 大橋 陸冬 今堀 惺也 谷口 蒼空	鹿児島 中袴田 羚 中袴田 遊 戸川大輝
	個人	高井 志道 (大阪) 663(337・326)	倉田 遼平 (千葉)	蒲 凜之介 (愛知)
少年女子	団体	滋賀 月原 花音 上柳 結加 佐々木心音	富山 流 小 夏 細江 文乃 纒坂 優来	福岡 古庄千陽子 平田 愛彩 手嶋慧都海
	個人	大井 梨世 (岐阜) 634(310・324)	石井 美羽 (大分)	黒田 彩夏 (愛媛)

国 体 ・ 国 ス ポ 記 録

(2005 年 第 60 回大会以降)

種 別	種 目	選手名	所 属	記 録	大会名
少年女子	70m ラウンド(72 射)	今井 希海	大阪府	649	特別鹿児島国体
	TEAM (3 名×72 射)	今井 希海	大阪府	649	特別鹿児島国体
		和 田 蒼		628	
		泉 華蓮		617	
成年女子	70m ラウンド(72 射)	園 田 稚	大分県	668	第 79 回滋賀国スポ
	TEAM (3 名×72 射)	朝久野 奈 波	大分県	663	第 78 回佐賀国スポ
		園 田 稚		657	
		渡 邊 芽 吹		629	
少年男子	70m ラウンド(72 射)	斉 藤 史 弥	岐阜県	669	第 77 回栃木国体
	TEAM (3 名×72 射)	河 田 悠 希	広島県	667	第 70 回和歌山国体
		泉 雄 也		661	
		奥 勇 登		640	
成年男子	70m ラウンド(72 射)	青 島 鉄 也	広島県	688	第 79 回滋賀国スポ
	TEAM (3 名×72 射)	青 島 鉄 也	広島県	688	第 79 回滋賀国スポ
		河 田 悠 希		672	
		伊 藤 魁 晟		661	

日 本 記 録【アウトドア・リカーブ部門】

オリンピックラウンド

2026 年 3 月 14 日現在

種 別	種 目	選手名	所 属	記 録	日付
U21 女子	70m ラウンド	鈴木 さくら	同志社大学	679	2024/5/12
	TEAM (3 名×72 射)	今 井 希 海	日本	663	1950 2025/2/18
		渡 邊 芽 吹		654	
		渡 邊 麻 央		633	
一般女子	70m ラウンド(72 射)	杉 本 智 美	大阪府	684	2024/6/23
	TEAM (3 名×72 射)	野 田 紗 月	日本	668	1993 2024/5/22
		園 田 稚		651	
		上 原 瑠 果		674	
U21 男子	70m ラウンド(72 射)	戸 松 大 輔	学ア連	687	2019/9/14
	TEAM (3 名×72 射)	舟 橋 悠 矢	近畿大学	665	1979 2022/6/18
		古 谷 溪 太		662	
		宮 成 孝 輔		652	
一般男子	70m ラウンド(72 射)	古 川 高 晴	大阪府	692	2018/11/13
	TEAM (3 名×72 射)	河 田 悠 希	日本	681	2034 2025/9/9
		中 西 絢 哉		680	
		青 島 鉄 也		673	

世 界 記 録

オリンピックラウンド

2026 年 7 月 28 日現在

種 別	種 目	選手名	所 属	記 録	日付
U21 女子	70m ラウンド(72 射)	ZHU JINGYI	CHINA	691	2025/9/9
	TEAM (3 名×72 射)	SUHYE JO	KOREA	2004	2023/6/6
		JO HANYI			
		HAN SOL			
一般女子	70m ラウンド(72 射)	LIM SIHYEON	KOREA	694	2024/7/25
	TEAM (3 名×72 射)	KANG CHAEYOUNG	KOREA	2070	2025/9/9
		LIM SIHYEON			
		A N S A N			
U21 男子	70m ラウンド(72 射)	METE GAZOZ	TURKEY	698	2019/4/9
	TEAM (3 名×72 射)	JI YECHAN	KOREA	2024	2024/6/6
		CHOI CHULJUN			
		PARK EUN SUNG			
一般男子	70m ラウンド(72 射)	KIM WOOJIN	KOREA	709	2025/9/14
	TEAM (3 名×72 射)	IM DONG HYUN	KOREA	2087	2012/7/27
		KIM BUBMIN			
		OH JIN HYEK			

関係機関連絡先(青森市)

実行委員会事務局

名称	所在地	電話番号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会	青森市柳川二丁目 1 - 1	017-761-4462

競技会場

名称	所在地	電話番号
カクヒログループアスレチックスタジアム	青森市大字宮田字高瀬 2 2 - 2	017-752-0641

警察・消防・保健所

名称	所在地	電話番号
青森県警察 青森警察署	青森市安方二丁目 1 5 - 9	017-723-0110
青森地域広域事務組合 消防本部	青森市長島二丁目 1 - 1	017-775-0853
青森市保健所	青森市佃二丁目 1 9 - 1 3	017-765-5280

医療

名称	備考	QRコード
医療情報ネット（ナビィ）	右記QRコードまたは、「医療情報ネット（ナビィ）」で検索	

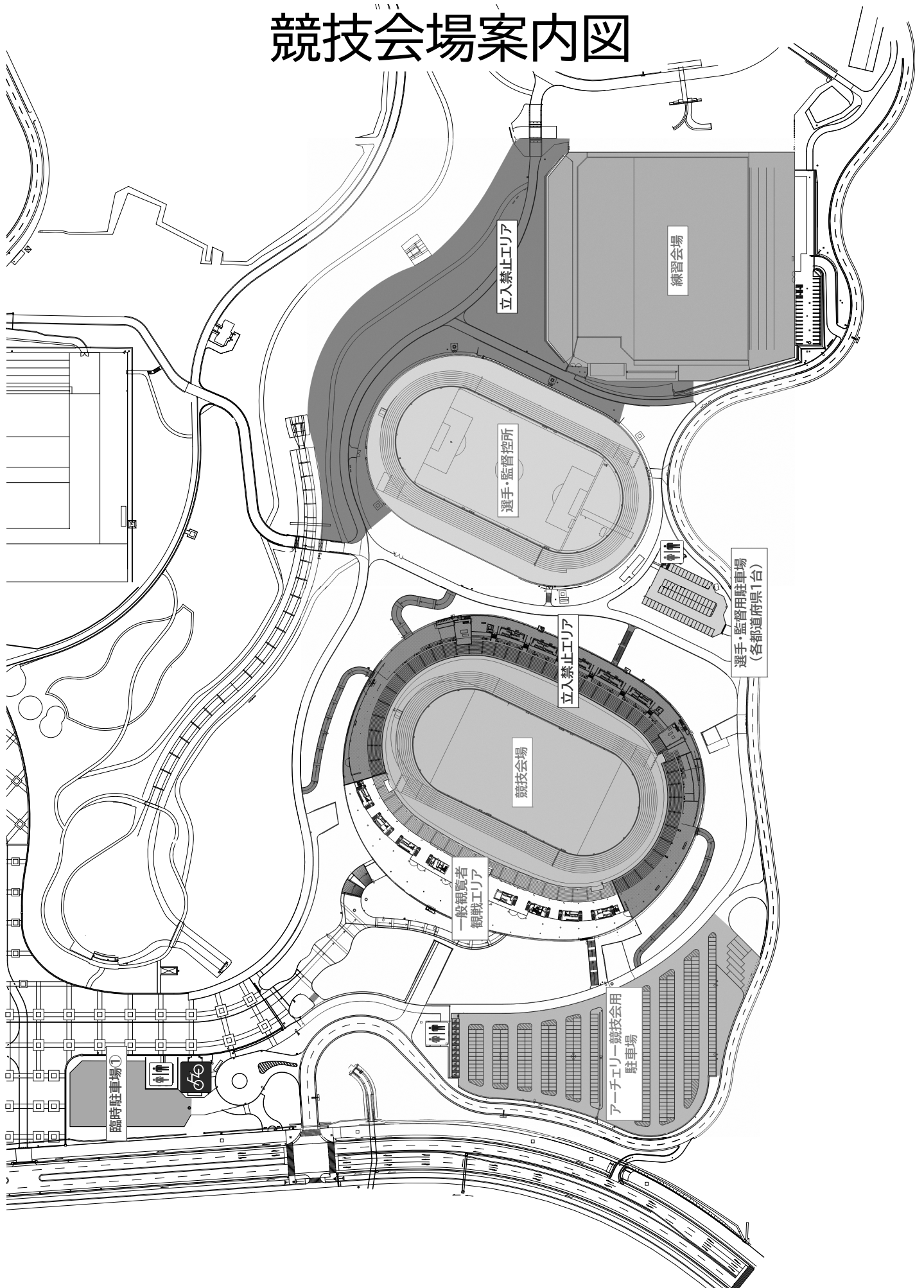
輸送

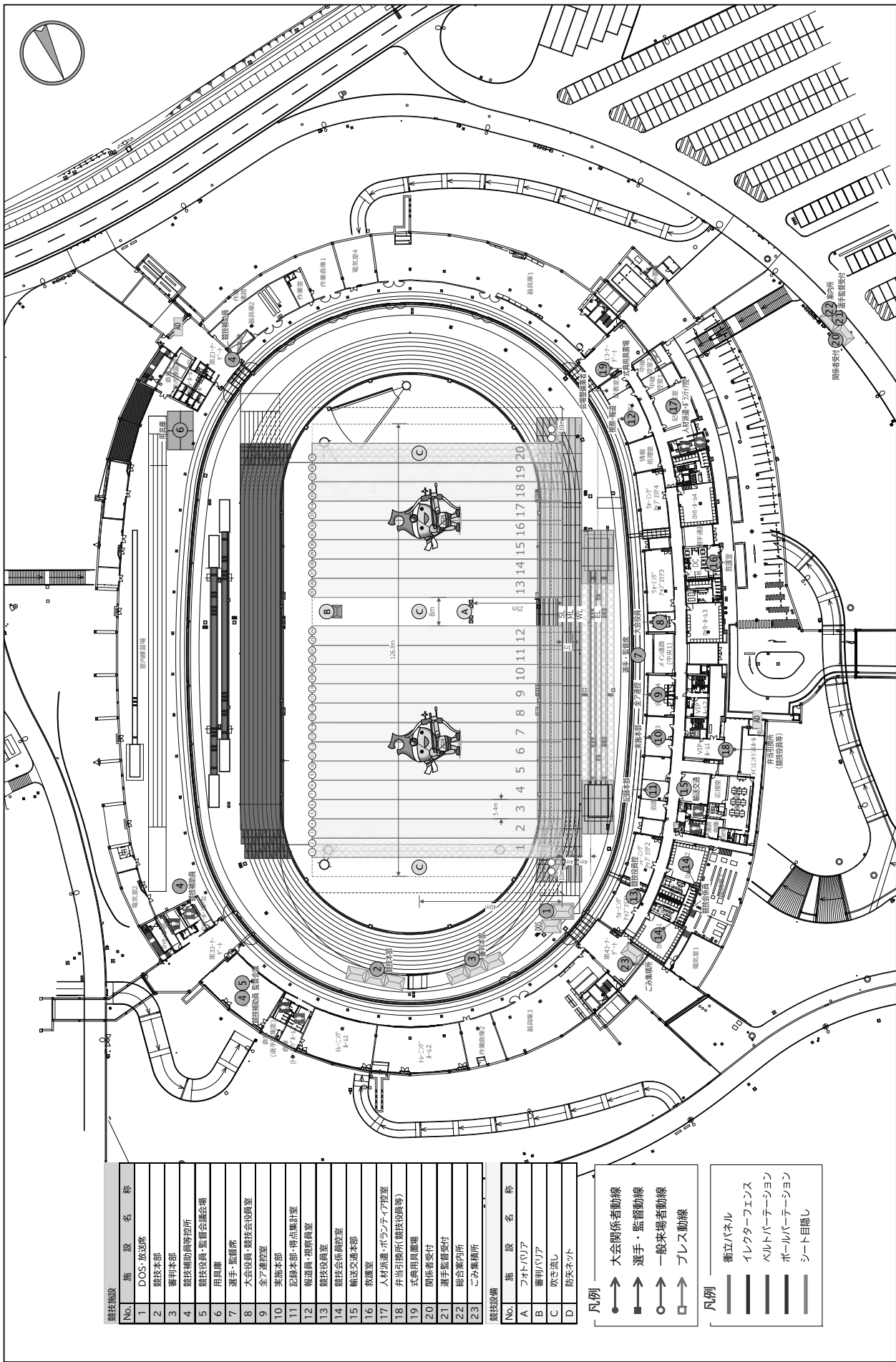
名称	所在地	電話番号
青の煌めきあおもり国スポ 青森市輸送センター	青森市安方一丁目 3 - 2 4 一二三ビル 2 F	017-715-5700

宿泊

名称	所在地	電話番号
青の煌めきあおもり国スポ 配宿センター	青森市安方一丁目 1 - 4 0 青森県観光物産館 4 階	017-711-8682

競技会場案内図





競技施設	
No.	施設名称
1	DOS放送席
2	競技本部
3	審判本部
4	競技補助員等控所
5	競技役員・監督会議会場
6	用具庫
7	選手・監督席
8	大会役員・競技役員室
9	全ラ運営室
10	事務本部
11	記録本部・得点集計室
12	報道員・指図員室
13	競技役員室
14	競技会係員控室
15	輸送交通本部
16	救護室
17	人材派遣・ボランティア控室
18	弁当引換所(競技役員等)
19	式典用具庫
20	関係者受付
21	選手監督受付
22	総合案内所
23	ごみ集積所

競技設備	
No.	施設名称
A	フットバリア
B	審判バリア
C	吹き流し
D	防炎ネット

- 凡例
- 大会関係者動線
 - 選手・監督動線
 - 一般来場者動線
 - プレス動線

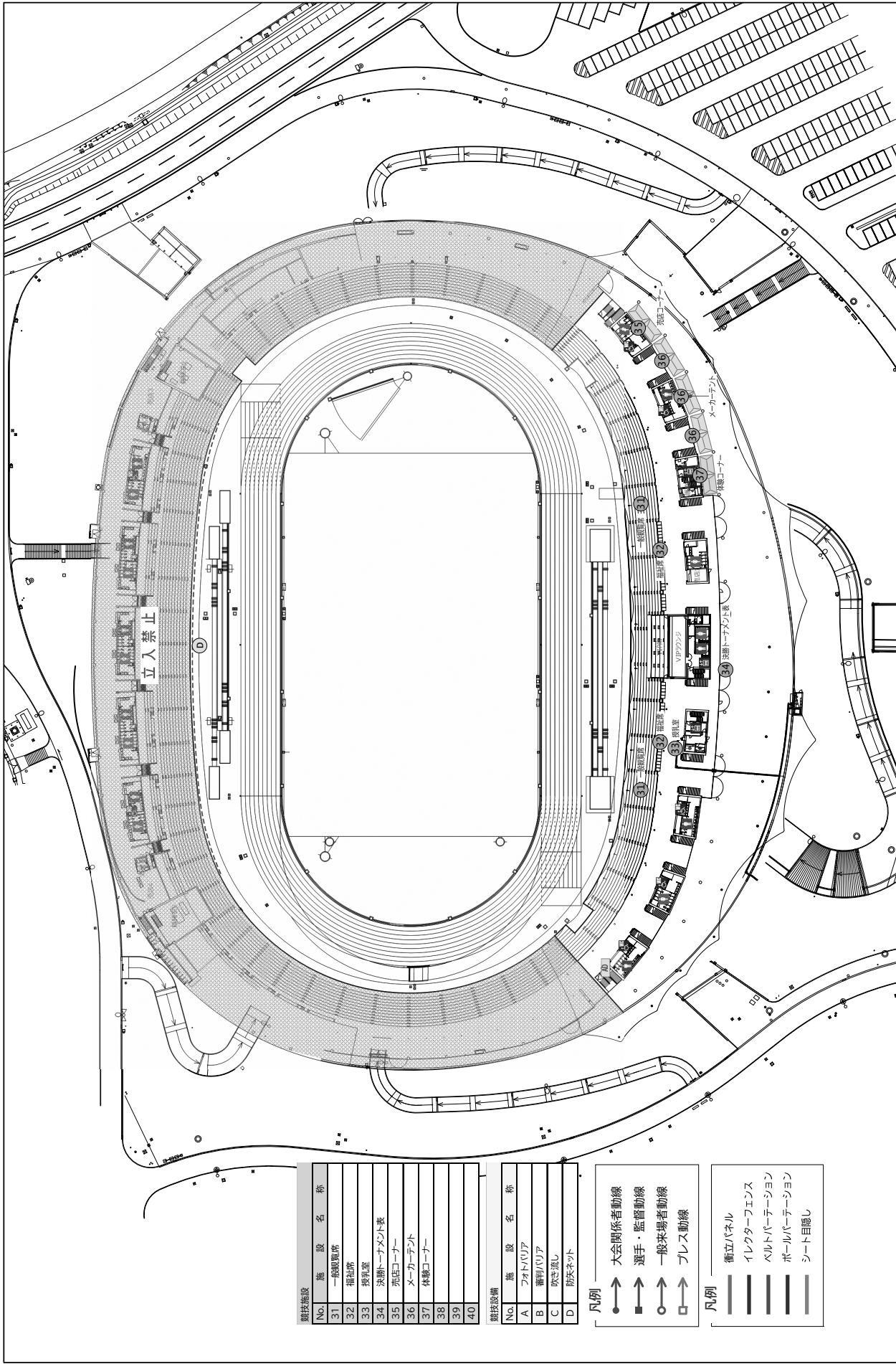
- 凡例
- 衝立パネル
 - レクターフェンス
 - バルトバーテーション
 - ポールバーテーション
 - シート目隠し

青の煌めきあomorい国スポ・障スポ
青森市実行委員会

青の煌めきあomorい国スポ
翔ける未来へ縄文の風に乗って
2026
第80回国民スポーツ大会

競技名 第80回国民スポーツ大会アーチェリー競技会
図面名 会場配置図(カレロリール・アスレチックススタジアムB1F)

縮尺 S=1/1000(A3)
修正日 2026/08/20



競技施設		
No.	施設名	称
31	一般観覧席	
32	審判席	
33	控室	
34	決闘・メダル授与	
35	売店コーナー	
36	メーカーテント	
37	体験コーナー	
38		
39		
40		

競技設備		
No.	施設名	称
A	フットバリア	
B	審判バリア	
C	吹流し	
D	防炎ネット	

凡例	
→	大会関係者動線
→	選手・監督動線
→	一般来場者動線
→	プレス動線

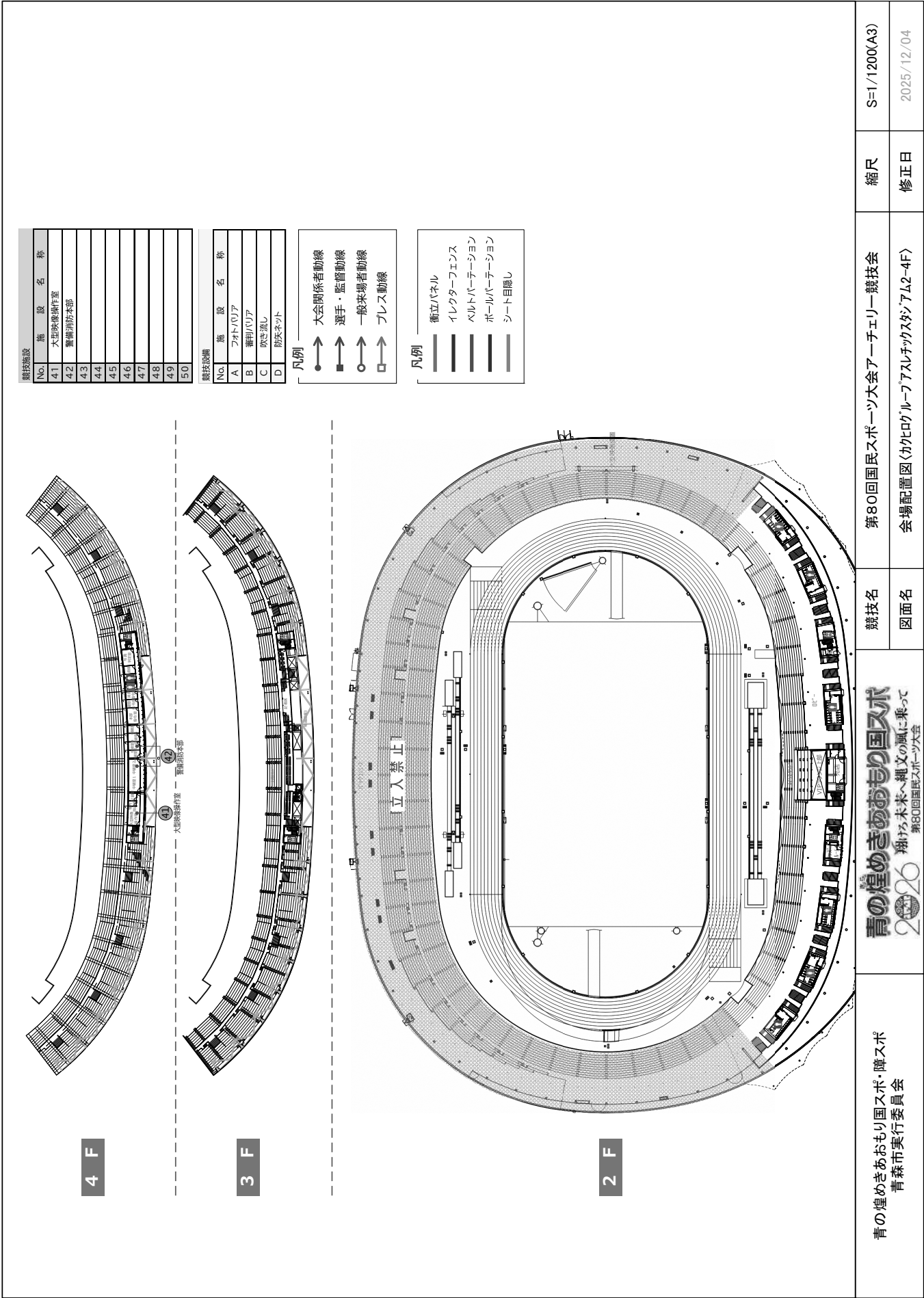
凡例	
—	衝立パネル
—	エレクターフェンス
—	バルトパーテーション
—	ポールパーテーション
—	シート目隠し

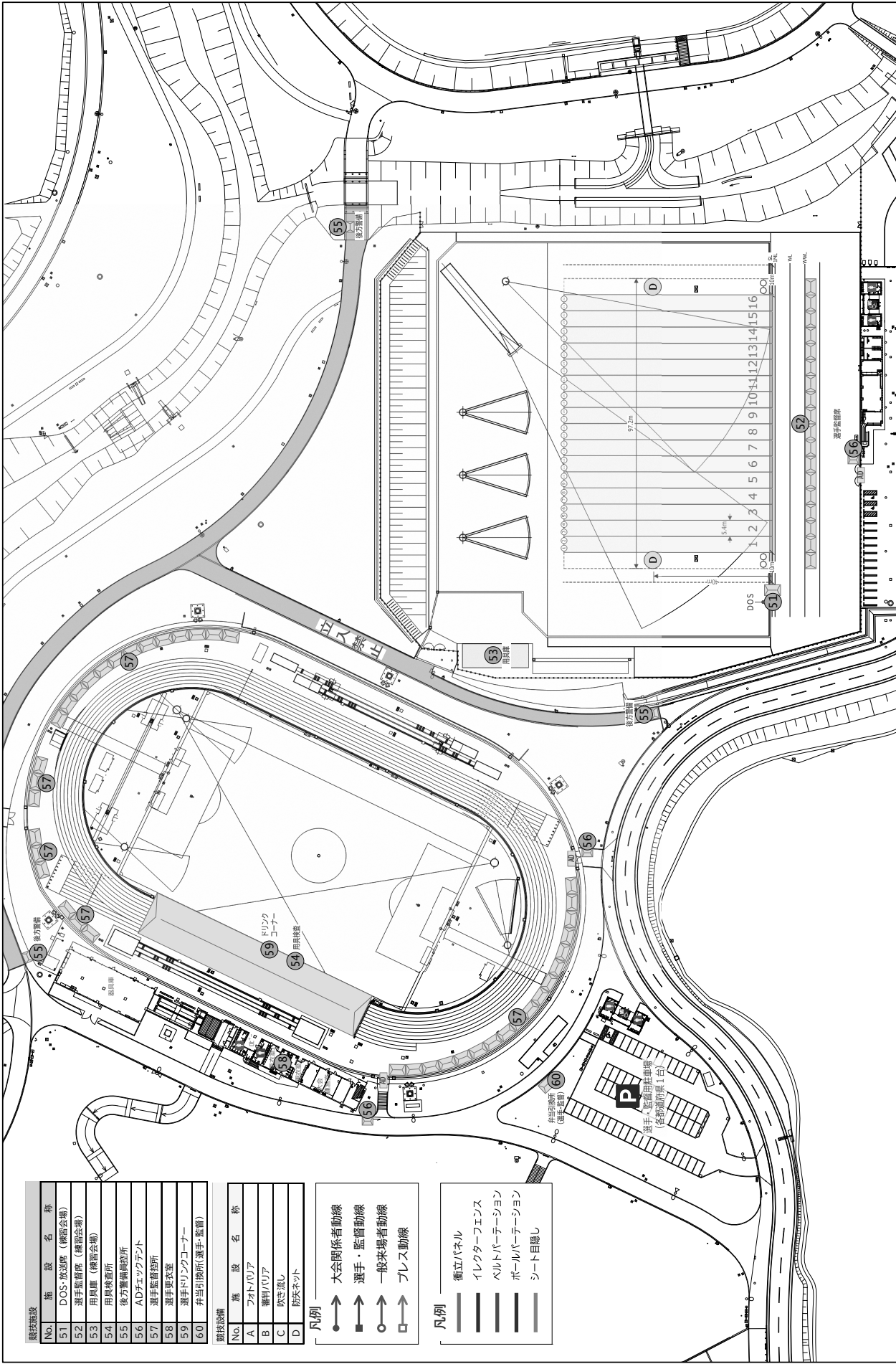
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
青森市実行委員会



競技名 第80回国民スポーツ大会アーチェリー競技会
図面名 会場配置図〈カセヒログループアスレチックスアジアM1F〉

縮尺 S=1/1000(A3)
修正日 2026/08/14





競技施設		
No.	施設名	称
51	DOS放送席（練習会場）	
52	選手監督席（練習会場）	
53	用具庫（練習会場）	
54	用具検査所	
55	後方警備員控所	
56	ADチェックポイント	
57	選手監督控所	
58	選手更衣室	
59	選手ドリンクコーナー	
60	弁当引換所（選手・監督）	

競技設備		
No.	施設名	称
A	フットバリア	
B	審判バリア	
C	吹き出し	
D	防炎ネット	

凡例	
●	大会関係者動線
■	選手・監督動線
○	一般来場者動線
□	プレス動線

凡例	
—	衝立パネル
—	イレクターフェンス
—	ベルトパーテーション
—	ボールパーテーション
—	シート目隠し

青の煌めきあおもり国スポ 青森市実行委員会	第80回国民スポーツ大会アーチェリー競技会		縮尺	S=1/1200(A3)
	会場配置図(カレヒロル・アスレチックスタジアム補助競技場)		修正日	2026/08/20

青森市協賛企業・団体のご紹介

(順不同・敬称略)

青森トヨタ自動車株式会社

青森三菱自動車販売株式会社

株式会社マツダアンフィニ青森

有限会社タイムプラン

青森市新町商店街振興組合

創創舎

有限会社オフィスオー・シー

青森市緑化事業協同組合

青森市造園協同組合

株式会社テクノル

株式会社オカモト

青森市アメニティ事業協同組合

A・Zコーポレーション株式会社

合同会社丸高興業

株式会社エイ・ワンド

有限会社松栄堂

小田桐錦石研究所合同会社

成邦商事株式会社

株式会社しじみちゃん本舗

青森県産米需要拡大推進本部

ヤマモト食品株式会社

鐘屋産業株式会社

二分団ねぶた会

株式会社アイティフォー

青森おでんの会

大和リース株式会社

一般社団法人公縁クロス機構

株式会社吉田工機

株式会社Sky Next

赤平設備工業株式会社

大塚製薬株式会社ニュートラ
シューティカルズ事業グループ
東北支店

株式会社CUTE UP

株式会社翁屋

全国農業協同組合連合会青森県本部

イオン東北株式会社

私たちは、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
青森市開催競技を応援しています！

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
2026 AOMORI CITY

MIZUNO SPORTS PROMOTION FOUNDATION

1970 ▶▶▶▶▶ 56TH ▶▶▶▶▶ 2026



スポーツを愛する人たちへ

私たち、ミズノスポーツ振興財団は、
スポーツの普及、振興に必要な事業を行い、
スポーツを愛する人たちを応援しています。



公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、
「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

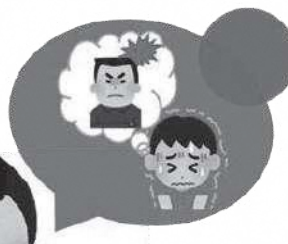
指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、
また誰に対してであっても、スポハラは起こります。



Japanese
Olympic
Committee



ぼうりよくこういとうそうだんまどぐち
スポーツにおける暴力行為等相談窓口



りようかのう
どなたでもご利用可能!

きがる そうだん
お気軽にご相談ください

「スポハラ」をなくすためには
「いかなる理由でも、指導者・
コーチによる不適切な行為は
あってはならない」

とスポーツに携わるすべての人が思うことが重要です。

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書》》



JSPPO
Japan Sport Promotion Organization

グッドコーチを目指して

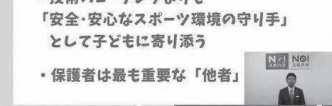
グッドコーチなら？ / バッドコーチなら？



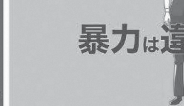
ケーススタディから考える

保護者の役割

- 技術のコーチングよりも「安全・安心なスポーツ環境の守り手」として子どもに寄り添う
- 保護者は最も重要な「他者」



暴力は違法行為



プレイヤーのミスに対するコーチング

ケーススタディ①



暴力と同様の違法行為



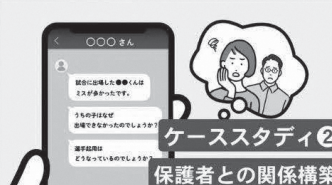
ケーススタディ③

フェアプレー



ケーススタディ②

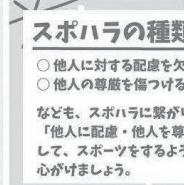
保護者との関係構築



スポハラの種類

- 他人に対する配慮を欠いた言動
- 他人の尊厳を傷つける言動

なども、スポハラに繋がりますので、「他人に配慮・他人を尊重」して、スポーツをするように心がけましょう。



スポーツに関わるみんなが

他人への思いやり・尊重

の

こころを持つことが大切



ケーススタディ④

プレー以外の行動等に対する対応

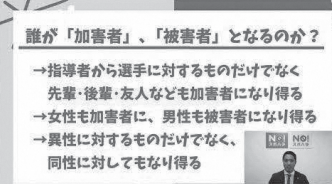


誰が「加害者」、「被害者」となるのか？

→指導者から選手に対するものだけでなく先輩・後輩・友人なども加害者になり得る

→女性も加害者に、男性も被害者になり得る

→異性に対するものだけでなく、同性に対してもなり得る



ケーススタディ⑤

セクシュアル・ハラスメント



パワハラとは？

自分の立場を利用し嫌がらせを行うこと

肉体的 精神的苦痛を与える

スポーツを行う環境を悪化させる



スポハラを防ぐために…

動機・プレッシャー (不正行為をする心機)

機会 (不正行為ができる環境)

正当化 (不正行為を正当化する心機)

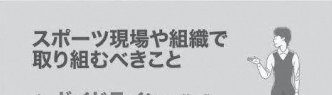
何のためにスポーツ指導を行うのかを考える
→勝つことよりもプレーヤーの成長と幸せのため

不正行為が起きにくい環境をつくる
→正直にならなければならない(オープンな指導環境)
→他者の意見を聞き、風通しを良くする

「これくらいはいけたりする」という考えを改める
→高い倫理観、高潔性(インテグリティ)をもつ

スポーツ現場や組織で取り組むべきこと

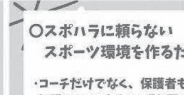
- ガイドラインの作成
- 「ハラスメントを許さない」という意思を明確にする



○スポハラに頼らない

スポーツ環境を作るためには…

- コーチだけでなく、保護者も知識のアップデートが必要！
- 誰もかスポハラの加害者になってしまう可能性があることから、スポハラが発生しない状況を理解し、予防に努める！



ケーススタディ⑥

プレーヤーのミスに対するコーチング



アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

公益財団法人 日本オリンピック委員会 公益財団法人 日本スポーツ協会 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟 公益財団法人 日本中学校体育連盟 独立行政法人 日本スポーツ振興センター



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構



挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。



JSPPO

Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



Otsuka

大塚製薬



MIZUNO

三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ

時事通信

アーチェリー競技会 記録速報

10月5～7日の
選手の記録は、
下記QRコードから
確認することができます！



2026 AOMORI

メモ

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

競技会場地マップ

Venue map

県内全40市町村と県外3市町において、国スポ・障スポ合わせて104競技を開催！

国スポ	正式競技(37)	特別競技(1)	公開競技(7)	デモンストレーションスポーツ(39)	冬季正式競技(3)
障スポ	正式競技(14)	オープン競技(3)	(身)身体障がい者が出場できる競技 (知)知的障がい者が出場できる競技 (精)精神障がい者が出場できる競技		

東青地域

青森市

- 国スポ総合開・閉会式
- 障スポ開・閉会式
- 陸上競技
- 水泳(競泳)
- 水泳(水球)
- 水泳(アーティスティックスイミング)
- 水泳(オープンウォータースイミング)
- テニス
- バレーボール(6人制)
- バレーボール(ビーチバレーボール)
- ハンドボール
- ソフトテニス
- 卓球
- 軟式野球
- ライフル射撃(25m)
- ラグビーフットボール(15人制)
- スポーツクライミング(リード・ボルダー)
- アーチェリー
- ゴルフ
- トライアスロン

平内町

- ゴルフ
- 綱引

蓬田村

- モルック

今別町

- 年齢別バドミントン

外ヶ浜町

- ペタンク

- ウォークビンゴ
- カーリング
- ソフトバレーボール
- ターゲット・バードゴルフ
- ドッジボール
- 年齢別ソフトテニス
- 年齢別テニス
- ふれあいボウリング
- ユニバーサルホッケー
- ランジボール卓球
- ダンススポーツ
- 陸上競技(身・知)
- 水泳(身・知)
- アーチェリー(身)
- 卓球(身・知・精)

サウンドテーブルテニス(身)を含む。

下北地域

むつ市

- ローイング
- バスケットボール
- セーリング
- フェンシング
- フライングディスク
- バスケットボール(知)

大間町

- ウォーキング

風間浦村

- ノルディックウォーキング

東通村

- ソフトバレーボール

佐井村

- ふれあいソフトボール

上北地域

十和田市

- サッカー
- バスケットボール
- 相撲
- ゲートボール
- バウンドテニス
- パークゴルフ
- Let's Enjoy バウンドテニス
- バレーボール(身)

三沢市

- ホッケー
- バスケットボール
- 軟式野球
- ソフトボール
- 銃剣道
- 武術太極拳
- いきいき太極拳
- スケート(ショートトラック)
- アイスホッケー
- ボウリング(知)
- 車いすバスケットボール(身)
- デフボウリング(身)

野辺地町

- ハンドボール

七戸町

- 剣道
- ブラインドテニス(身)

六戸町

- 軟式野球

横浜町

- マラソン

東北町

- ソフトボール
- 女子ソフトボール
- ソフトボール(知)

六ヶ所村

- ホッケー
- 軟式野球

おいらせ町

- 軟式野球
- スポーツチャンバラ
- ファイン・ボール
- ブラインドベースボール(身)
- ファイン・ボール(身)

西北地域

五所川原市

- バレーボール(6人制)
- バレーボール(精)

つがる市

- バレーボール(6人制)
- 柔道
- バレーボール(知)

鯨ヶ沢町

- マスターズスイミング

深浦町

- ノルディックウォーキング

板柳町

- ふれあいゲートボール
- ウォーキング

鶴田町

- マラソン&ウォーキング

中泊町

- ビーチサッカー

中南地域

弘前市

- 体操(競技)
- 体操(新体操)
- 体操(トランポリン)
- ソフトボール
- 弓道(近的・遠的)
- ライフル射撃(50m、10m、BR・BP)
- 空手道

黒石市

- バドミントン

西目屋村

- カヌー(スプリント)
- カヌー(スラローム・ワイルドウォーター)

大鰐町

- パラグライディング
- オリエンテーリング
- スキー(ジャイアントスラローム)
- スキー(クロスカントリー)

- クレー射撃(トラップ・スキート)
- 高等学校野球(硬式・軟式)
- マスターズ陸上競技
- ビリヤード
- フライングディスク(身・知)
- ボッチャ(身)

平川市

- ウエイトリフティング
- グラウンド・ゴルフ
- エアロビック
- インディアカ

藤崎町

- なぎなた
- パワーリフティング
- スポーツウエルネス吹矢

田舎館村

- ユニカール

三八地域

八戸市

- サッカー
- バスケットボール
- レスリング
- 自転車(トラックレース)
- ソフトボール
- ラグビーフットボール(7人制)
- ボウリング
- 空道
- スケート(スピード)
- スケート(フィギュア)
- アイスホッケー
- サッカー(知)
- フットソフトボール(知)

三戸町

- パークゴルフ

田子町

- マラソン

階上町

- 自転車(ロードレース)
- フロアボール

五戸町

- サッカー

南部町

- サッカー

新郷村

- エンジョイ!グラウンド・ゴルフ

県外

宮城県利府町

- 水泳(飛込)

山梨県北杜市

- 馬術

秋田県鹿角市

- スキー(スペシャルジャンプ)
- スキー(コンパインド)

青の煌めき^{きら}あおもり国スポ

翔ける未来へ縄文の風に乗って



競技記録・速報二次元コード

PC・スマホ



フィーチャーフォン
(ガラケー)



第80回国民スポーツ大会 アーチェリー競技会

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会